

2025年度 シラバス

2025.3.31 作成

岩手保健医療大学大学院

Iwate University of Health and Medical Sciences Graduate School

— 目 次 —

【カリキュラム一覧】

【修了要件】

Ctrl キーを押しながら科目名をクリックすると科目のページに飛べます

【共通科目】

看護理論特論	1
看護研究方法特論Ⅰ	3
看護研究方法特論Ⅱ	5
臨床倫理特論	7
多職種連携特論	9
統計学特論	11
質的研究方法特論	13
医療社会学特論	15
フィジカルアセスメント特論	17
コンサルテーション特論	19
災害看護特論	21
看護学教育特論	23

【専門科目】

基礎看護学特論Ⅰ	25
基礎看護学特論Ⅱ	27
基礎看護学演習Ⅰ	29
基礎看護学演習Ⅱ	31
地域看護学特論Ⅰ	33
地域看護学特論Ⅱ	35
地域看護学演習Ⅰ	37
地域看護学演習Ⅱ	39
在宅看護学特論Ⅰ	41
在宅看護学特論Ⅱ	43
在宅看護学演習Ⅰ	45
在宅看護学演習Ⅱ	47
老年看護学特論Ⅰ	49
老年看護学特論Ⅱ	51
老年看護学演習Ⅰ	53
老年看護学演習Ⅱ	55
母性看護学特論Ⅰ	57
母性看護学特論Ⅱ	59
母性看護学演習Ⅰ	61
母性看護学演習Ⅱ	63
小児看護学特論Ⅰ	65
小児看護学特論Ⅱ	67
小児看護学演習Ⅰ	69
小児看護学演習Ⅱ	71
精神看護学特論Ⅰ	73
精神看護学特論Ⅱ	75
精神看護学演習Ⅰ	77
精神看護学演習Ⅱ	79
看護管理学特論Ⅰ	81
看護管理学特論Ⅱ	83
看護管理学特論Ⅲ	85
看護管理学演習	87

【研究科目】

看護学特別研究	89
---------	----

【カリキュラム一覧】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			必要単位数
			必修	選択	講義	演習	実験・実習	
共通科目	看護理論特論	1 前		2	○			必修 8 単位 選択 6 単位以上 合計 14 単位以上
	看護研究方法特論 I	1 前	1		○			
	看護研究方法特論 II	1 後	1		○			
	臨床倫理特論	1 後	2		○			
	多職種連携特論	1 後	2		○			
	統計学特論	1 前		2	○			
	質的研究方法特論	1 前		2	○			
	医療社会学特論	1 後		2	○			
	フィジカルアセスメント特論	1 前		2	○			
	コンサルテーション特論	1 後		2	○			
	災害看護特論	1 後		2	○			
看護学教育特論	1 前	2		○				
専門科目	基礎・地域連携 看護学領域	基礎看護学特論 I	1 前		2	○		選択 8 単位以上
		基礎看護学特論 II	1 後		2	○		
		基礎看護学演習 I	1 前		2		○	
		基礎看護学演習 II	1 後		2		○	
		地域看護学特論 I	1 前		2	○		
		地域看護学特論 II	1 後		2	○		
		地域看護学演習 I	1 前		2		○	
		地域看護学演習 II	1 後		2		○	
		在宅看護学特論 I	1 前		2	○		
		在宅看護学特論 II	1 後		2	○		
		在宅看護学演習 I	1 前		2		○	
	在宅看護学演習 II	1 後		2		○		
	臨床・応用看護学領域	老年看護学特論 I	1 前		2	○		
		老年看護学特論 II	1 後		2	○		
		老年看護学演習 I	1 前		2		○	
		老年看護学演習 II	1 後		2		○	
		母性看護学特論 I	1 前		2	○		
		母性看護学特論 II	1 後		2	○		
		母性看護学演習 I	1 前		2		○	
		母性看護学演習 II	1 後		2		○	
		小児看護学特論 I	1 前		2	○		
		小児看護学特論 II	1 後		2	○		
		小児看護学演習 I	1 前		2		○	
		小児看護学演習 II	1 後		2		○	
		精神看護学特論 I	1 前		2	○		
		精神看護学特論 II	1 後		2	○		
	精神看護学演習 I	1 前		2		○		
精神看護学演習 II	1 後		2		○			
看護管理学領域	看護管理学特論 I	1 前		2	○			
	看護管理学特論 II	1 前		2	○			
	看護管理学特論 III	1 前		2	○			
	看護管理学演習	1 後		2		○		
研究科目	看護学特別研究	2 通	8		○		必修 8 単位	
合計 (45 科目)		—	16	78	—		30 単位以上	

専門科目は各自の
専門研究領域の科
目「特論 (I~III)」
及び「演習 (I・II)」
を含む 8 単位を修得
すること

修了要件

本大学院を修了するためには、本大学院に2年以上在籍し、所定の授業科目を履修し、以下に定める30単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査に合格する必要があります。

科目区分	必修科目	選択科目	修了要件
共通科目	8 単位以上	6 単位以上	14 単位以上
専門科目	—	8 単位以上	8 単位以上
研究科目	8 単位	—	8 単位
計	16 単位以上	14 単位以上	30 単位以上

共 通 科 目

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
看護理論特論	M11001	2 (30)	選択	1	前期	教授 岡田実
授業概要	看護実践で行われている看護援助方法の主要な理論的背景について学ぶ。看護実践の基盤となる看護論としてナイチンゲール看護論、ヘンダーソン看護論、ベナー看護論、オレム看護論、ウィーデンバック看護論について理解と考察を深め、看護実践を充実し発展させる方法を学修する。また、各自の看護体験と看護理論との関係について考察し、看護理論や中範囲理論を活用して看護実践を展開する方法を探究する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護援助に関する主要な理論について理解することができる。 2. 各自の看護実践の理論的基盤を明確にすることができる。 3. 看護理論や中範囲理論を活用して看護実践を展開する方法を身につけることができる。 					
キーワード	看護理論、看護実践、看護援助方法、理論適用					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	看護理論とは 看護に関する理論の概要	講義、各自の看護体験と看護理論及び概念モデルとの関連についてのディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田
2、3	ナイチンゲール看護論	看護理論や中範囲理論についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田
4、5	ナイチンゲール看護論の看護実践への適用	看護理論や中範囲理論に関連した看護体験についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田
6	ヘンダーソン看護論	看護理論や中範囲理論についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田
7	ヘンダーソン看護論の看護実践への適用	看護理論や中範囲異論に関連した看護体験についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田
8	ベナー看護論①	看護理論や中範囲理論についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田
9	ベナー看護論②	看護理論や中範囲理論についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田
10	ベナー看護論の看護実践への適用	看護理論や中範囲理論に関連した看護体験についてのプレゼンテーションとディスカッション			授業項目の 事前学習	岡田

11	オレム看護論	看護理論のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	岡田
12	オレム看護論の看護実践への適用	看護理論に関連した看護体験のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	岡田
13	ウィーデンバックの看護論	看護理論のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	岡田
14	ウィーデンバックの看護実践への適用	看護理論に関連した看護体験のプレゼンテーションとディスカッション	授業項目の事前学習	岡田
15	まとめ	これまでの学びのふりかえり、活用に向けてのディスカッション	授業項目の事前学習	岡田
履修条件		特になし。		
教科書・参考図書等		<p>筒井真優美編集：看護理論家の業績と評価、医学書院、2015</p> <p>筒井真優美編集：看護理論改訂第2版、南江堂、2015</p> <p>河村貞枝・出島有紀子・岡田実[ほか]著、ナイチンゲールはフェミニストだったのか、日本看護協会出版会、2021</p> <p>Lorraine Olszewski Walker, Kay Coalson Avant 著、中木高夫・川崎修一訳、看護における理論構築の方法、医学書院、2008</p> <p>野川道子編著、看護実践に活かす中範囲理論、メヂカルフレンド社、2016</p> <p>P.ベナー著、井部俊子監訳：ベナー看護論（新訳版）初心者から達人へ、2005、医学書院</p> <p>Patricia Benner: From Novice to Expert: Excellence and Power in Clinical Nursing Practice, Prentice Hall, 2001</p> <p>ショーン著、佐藤学・秋田清美訳：専門家の知恵—反省的実践家は行為しながら考える、ゆみる出版</p> <p>D.E.Orem 著、小野寺杜紀訳：オレム看護論—看護実践における基本概念、第4版、医学書院、2005</p> <p>片田範子編集、こどもセルフケア看護理論、医学書院、2019</p> <p>アーネスティン・ウィーデンバック著、外口玉子・池田明子訳：臨床看護の本質 患者援助の技術 1984</p> <p>アーネスティン・ウィーデンバック著、都留 伸子訳：臨床看護指導の本質 1972</p> <p>A.C. エドモンドソン著、野津智子訳：恐れのない組織—「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす、英治出版、2021</p> <p>A.C. エドモンドソン著、野津智子訳：チームが機能するとはどういうことか、英治出版、2014</p> <p>E.H. シャイン著、金井真弓訳：人を助けるとはどういうことか、英治出版、2009</p>		
成績評価方法		<p>パワーポイントの作成（40%）、プレゼンテーション（30%）、質疑応答（30%）で評価します。Zoomを使った遠隔授業による参加を認めます。</p>		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
看護研究方法特論 I	M11002	1 (15)	必修	1	前期	教授 江守陽子
担当教員 職位・氏名	教授 江守陽子、橋本美幸、吹田夕起子					
授業概要	看護学における科学的な研究のプロセス（看護における研究の役割、科学的アプローチ、理論やモデルに基づく研究疑問の立て方など）を理解し、研究用語、研究デザイン及び研究方法についての理解を深める。研究のプロセスに沿って研究課題、研究背景、研究疑問、文献検索、文献検討、概念枠組み等を理解しながら、研究計画の立案に着手するまでの基礎的能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学における科学的な研究のプロセスについて説明できる。 2. 量的研究デザインと質的研究デザインについて説明できる。 3. 量的研究と質的研究のクリテイク基準を理解し実践できる。 4. 関連する文献を適切に検索・収集し管理する方法を実践できる。 					
キーワード	科学的研究プロセス、質的研究、量的研究、クリテイク、研究倫理、研究計画書作成					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	授業内容ガイダンス	オリエンテーション、修士課程における研究の進め方 看護研究とは、なぜ研究するのか 各自の問題の所在			ディスカッション	橋本
2	看護研究とは	研究疑問、研究課題の設定、研究目的の明確化 問いのレベル、研究過程、機能的推論と演繹的推論の方法			事前学習と ディスカッション	橋本
3	看護文献	文献検索と文献検討 文献検討の目的、文献の探し方 文献クリテイク、文献整理の方法			事前学習と ディスカッション	吹田
4	研究デザインのいろいろ①	質的研究とデータ収集方法 事例研究、フィールド・スタディ、現象学的研究、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、エスノグラフィ、文献研究			事前学習と ディスカッション	吹田
5	研究デザインのいろいろ②	量的研究とデータ収集方法 観察研究、疫学研究、実験研究 データ収集と分析			事前学習と ディスカッション	江守
6	具体的な研究の進め方	研究計画書の作成方法 伝わる表現、わかりやすい文体、文章の組み立て方 論文の構成、イントロダクション、本文、結論			事前学習と ディスカッション	江守
7	研究倫理、倫理的配慮	研究計画書の研究倫理審査 研究対象となった個人に対する人権擁護、個人情報保護、研究によって生じる個人への不利益および危険性に対する配慮			事前学習と ディスカッション	江守

8	論文作成とプレゼンテーション	論文の構成、緒言、研究方法、結果、考察、結論 論文の書き方、図表作成の方法、抄録の書き方、プレゼンテーションの方法	事前学習とディスカッション	橋本
履修条件		特になし。		
教科書・参考図書等		<p>Polit, D.F.&Hungler, B.P. Nursing Research: Principles and Methods. J.B. Lippincott. D.F.ポーリット & C.T. ベック著 近藤潤子監訳：看護研究:原理と方法（第2版）、医学書院。</p> <p>L.O.Walker & K.C. Avant 著, 中木他訳：看護における理論構築の方法、医学書院、2008</p> <p>Pamela J. Brink, Marilyn J. Wood. Basic Steps in Planning Nursing Research. 児玉香津子・輪湖史子訳：看護研究計画書 作成の基本ステップ、日本看護協会出版会、2017</p> <p>上野千鶴子：情報生産者になる、ちくま新書、2018</p> <p>上田ゼミ卒業生チーム、大滝世津子：情報生産者になってみた、ちくま新書、2021</p> <p>川口孝泰：看護研究ガイドマップ、医学書院、2009</p> <p>近江幸治著：学術論文の作法、成文堂、2022</p> <p>新垣聡著：評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方、同文堂出版、2016</p> <p>田中幸夫：卒論執筆のための Word 活用術、講談社、2017</p> <p>新堀聡：評価される博士・修士・卒業論文の書き方考え方、同文館出版、2016</p> <p>佐藤淑子、和田佳代子編著：看護師のための Web 検索・文献検索入門、医学書院、2013</p> <p>その他、必要に応じて提示する。</p>		
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート（80%）と授業への貢献度（20%）を総合して評価する。 ・土曜日の対面授業でなくても、Zoomでの授業可。 		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
看護研究方法特論Ⅱ	M11012	1 (15)	必修	1	後期	教授 橋本美幸
担当教員 職位・氏名	教授 橋本美幸、濱中喜代、土田幸子、三浦靖彦、永井睦子、佐藤公子、 吹田夕起子、江守陽子、岡田実 准教授 上田耕介					
授業概要	研究題名、研究背景、研究目的と意義、研究方法、データの収集方法及び分析方法、 質問紙やインタビューガイドの作成、研究協力依頼文作成までの研究の一連の流れに沿 って、研究倫理審査に申請する研究計画書作成要領に基づいて、研究計画書を完成させ る。立案した研究計画書を発表し、アドバイスに基づいて修正し、完成度の高い研究計 画書を作成する能力を養う。					
到達目標	1. 研究の背景・目的・意義について説明できる。 2. 研究デザインと研究方法について説明できる。 3. データ収集の方法と分析方法について説明できる。 4. 研究対象者に研究倫理に基づいた適切な研究依頼文を作成することができる。 5. 研究計画を発表し、アドバイスに基づいて計画書の完成度を高めることができる。					
キーワード	科学的研究プロセス、質的研究、量的研究、クリティーク					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	研究計画書の作成 I	研究背景・目的・意義		ディスカッション	研究指導 教員	
2	研究計画書の作成 II	研究方法・研究期間・対象・研究 デザイン・言葉の定義		事前学習と ディスカッション	研究指導 教員	
3	研究計画書の作成 III	研究対象者、その選出方法・除外 基準・募集方法とその手順		事前学習と ディスカッション	研究指導 教員	
4	研究計画書の作成 IV	データの収集方法及び分析方法 質問紙の作成・インタビューガイ ドの作成		事前学習と ディスカッション	研究指導 教員	
5	研究計画についてのディスカッション	各院生の研究計画のプレゼンテ ーションと討論		事前学習と ディスカッション	橋本 研究指導 教員	
6	研究計画書の作成 V	依頼文の作成、予測されるリス ク、守秘や個人情報、研究デー タの取扱い等		事前学習と ディスカッション	研究指導 教員	
7	研究計画概要発表会への参加	研究計画のプレゼン		発表準備	研究指導 教員	
8	指摘事項に対するレターの作成	指導教員とのディスカッション		レター作成	研究指導 教員	
履 修 条 件	なし					

<p>教科書・参考図書等</p>	<p>Polit, D.F.&Hungler, B.P. Nursing Research: Plinciples and Methods. J.B. Lippincott. D.F.ポーリット & C.T. ベック著 近藤潤子監訳:看護研究:原理と方法(第2版)、医学書院.</p> <p>Designing Clinical Research, Fifth Edition. ウォーレン S. ブラウナー、トーマス B. ニューマン、他著 木原雅子, 木原正博 監訳:医学的研究のデザイン- 推論の質を高める系統的アプローチ-(第5版)、メディカル・サイエンス・インターナショナル.</p> <p>よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版. 牧本清子・山川みやえ 編著 日本看護協会出版</p> <p>その他、必要に応じて提示する。</p>
<p>成績評価方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッションへの参加内容(20%)と研究計画書の作成及びレター作成(80%)を総合して評価する。 ・土曜日の対面授業でなくても、Zoomでの授業可。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択の別	学年	開講 時期	科目責任者
臨床倫理特論	M11003	2 (30)	必修	1	後期	教授 濱中喜代
担当教員 職位・氏名	教授 濱中喜代、三浦靖彦 准教授 石井真紀子					
授業概要	臨床現場で看護師をはじめとして医療従事者が患者本人や家族と向き合い・寄り添いながら医療・ケアを進める中で生じる問題に、多職種が協働して対応する際の要となる「どうしたらよいか」を考える営みを臨床倫理という。本講では看護における倫理的な概念の振り返りを行う。履修者が臨床で遭遇した事例を出し合い、看護学領域・医学領域の教員がスーパーバイズする事例検討を行う。事例を用いて倫理的課題の検討方法について理論的・実践的な理解を深める。さらに多職種の中で臨床倫理を進める能力を修得する。さらに事例検討から得られた臨床倫理能力を発展させる方法についても学修する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床現場で医療・ケアを進める中で生じる問題について説明できる。 2. 看護における倫理的な概念について説明できる。 3. 臨床で遭遇した事例を振り返り、倫理的な課題やその解決方法を考えることができる。 4. 事例を用いた倫理的課題の検討方法について、理論的・実践的に説明できる。 5. 臨床倫理能力を発展させるための個人・集団における具体的な方法を身につけることができる。 					
キーワード	倫理的課題、倫理的な概念、事例検討の方法、臨床倫理能力、多職種協働					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	社会にある倫理と臨床倫理	倫理総論・講義		関連文献の精読	三浦	
2	医療・ケア従事者の倫理（倫理的姿勢と行動、倫理原則、ケアと徳の倫理ーケア・スピリット）	臨床倫理の基礎・講義		関連文献の精読	三浦	
3	医療・ケアが目指す最善（人生と生命、QOL、益と害のアセスメント proportionality）	与益原則各論・講義		関連文献の精読	三浦	
4	意思決定プロセスと意思決定支援（情報共有・合意モデル、厚労省ガイドライン、ACP）、ジレンマ	人間尊重原則各論・講義		関連文献の精読	三浦	
5	医療・ケアを進める中で生じる問題（倫理的課題）	倫理的課題・講義		参考文献の精読	濱中	
6	看護における倫理的な概念①：ケアリング・コンパッション・アドボカシー・パターンリズム	倫理的概念・演習：調べ学習とプレゼンテーション		調べ学習 プレゼンテーション準備	濱中	
7	看護における倫理的な概念②：インフォームド Consent・守秘義務・倫理綱領	倫理的概念・演習：調べ学習とプレゼンテーション		調べ学習 プレゼンテーション準備	石井	
8	臨床で遭遇した事例の振り返り①	演習 GW 自己の経験を振り返り レポート作成		自己の経験の振り返り準備	濱中・石井	

9	臨床で遭遇した事例の振り返り②	演習 GW 作成したレポートの発表と共同検討	レポートの発表準備	濱中・三浦 石井
10	臨床で遭遇した事例の振り返り③	演習 GW 作成したレポートの発表と共同検討(続)	同上	濱中・三浦 石井
11	事例検討の方法：理論編（ジレンマ構成法と臨床倫理検討シート）	モデル事例を使った講義	テキスト精読 pp. 234-264	濱中・石井
12	事例検討の方法：実践編 1（チーム連携）	演習：事例展開 GW	事例事前に記述	濱中・石井
13	事例検討の方法：実践編 2（多職種連携）	演習：事例展開 GW	同上	濱中・石井
14	臨床倫理能力を発展させる方法：個人（自己研鑽）	講義	関連文献の精読	濱中
15	まとめ（ケア・スピリットのルーブリック評価等）	講義・演習	同上	濱中・石井
履修条件		特になし。		
教科書・参考図書等		日本臨床倫理学会編 臨床倫理入門 II へるす出版 清水哲郎 看護学生のための哲学・倫理学・死生学 2021 鶴若麻理、麻原きよみ編：ナラティブでみる看護倫理 南江堂 2013		
成績評価方法		事前事後学習・プレゼンテーション 20% 振り返りレポート 30% GW 貢献度 20% 最終レポート 30%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択の別	学年	開講 時期	科目責任者
多職種連携特論	M11004	2 (30)	必修	1	後期	准教授 越納美和
担当教員 職位・氏名	教授 三浦靖彦、吹田夕起子 准教授 越納美和					
授業概要	地域包括ケアシステムで展開される異なる専門分野の理解を深め、チーム医療の重要性を認識する。看護、医療、リハビリテーション、薬学、介護など、様々な専門職と協力して、対象者のケアを向上させる能力を育成する。多職種の基本理念や効果的なコミュニケーション技術について対話による学修やグループワークなどのアクティブラーニングを通じた実践的な学修を行う。実際の医療現場での連携の流れを通して、チームによる問題解決能力を養う。					
到達目標	1. 保健・医療・福祉における多職種連携の視点を説明できる。 2. 医療における多職種連携について説明できる。 3. 地域医療・福祉における多職種連携の意義と方法が理解できる。 4. 事例検討を通じて専門職の役割を理解し、それぞれの検討意義を説明できる。					
キーワード	地域包括ケアシステム、多職種連携、アクティブラーニング、倫理					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	地域包括ケアシステムについて	授業ガイダンス、到達目標に向けた学修方法（講義及び討議）			配布資料の事前後学習	越納
2	医療現場における多職種連携について	グループワーク学修（課題に対するテーマ選定）			グループ学修	越納
3、4、 5	医療現場における多職種連携についての発表	テーマについての発表・グループディスカッション ・ターミナル患者に関わる多職種連携 ・退院を控えた患者のリハビリテーション連携 ・母子保健における助産師・保健師・精神科医などの連携 ・活動性低下による認知症患者への連携 など			各学生の発表 グループディスカッション	越納
6	地域医療・福祉における多職種連携について	グループワーク学修（課題に対するテーマ選定）			グループ学修	越納
7、8、 9	地域医療・福祉における多職種連携についての発表	テーマについての発表・グループディスカッション ・地域包括ケアと多職種連携の役割 ・訪問看護のケアプランにおける位置付け ・在宅療養中の難病に関わる専門職の連携 ・地域における多職種連携の促進・阻害因子 など			各学生の発表 グループディスカッション	越納

10、11	高齢者の支援における多職種連携	高齢者や認知症者の支援におけるチームアプローチ、多職種連携 (講義及び討議)	配布資料の事前学習	吹田
12、13	臨床倫理の基礎と多職種で行う倫理コンサルテーション	多職種にまたがる「もやもや症例」の対応 (講義及び討議)	配布資料の事前学習	三浦
14、15	地域での多職種連携の実際 地域多職種で考える患者と家族 にとっての最善	ACP の地域での共有 (講義及び討議)	配布資料の事前学習	三浦
履 修 条 件	特になし			
教科書・参考図書等	その都度紹介する			
成績評価方法	授業態度 (20%)、グループワーク内容 (40%)、課題提出物 (40%) で評価する。			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
統計学特論	M11005	2 (30)	選択	1	前期	講師 牛渡亮
授業概要	保健医療の場や看護研究において必要となる推測統計の基礎を身につける。具体的には、調査手法の種類、推定と検定の考え方などを学修し、データの性質に応じた統計手法の選択・分析する能力の修得を目標とする。講義形式ではあるが、調査法選択・分析を体験しながら、調査手法と統計知識の定着を図る。					
到達目標	1. 統計分析の流れと種類を理解し、適切に使用できる。 2. 統計ソフト SPSS を用いて基礎的な多変量解析を行うことができる。					
キーワード	社会調査、量的調査、SPSS					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	量的研究デザインと方法Ⅰ	社会調査とはⅠ				牛渡
2	量的研究デザインと方法Ⅱ	社会調査とはⅡ				牛渡
3	量的研究デザインと方法Ⅲ	調査の種類と方法Ⅰ				牛渡
4	量的研究デザインと方法Ⅳ	調査の種類と方法Ⅱ				牛渡
5	推測統計Ⅰ	クロス表Ⅰ				牛渡
6	推測統計Ⅱ	クロス表Ⅱ			授業後、提出課題あり	牛渡
7	推測統計Ⅲ	相関分析Ⅰ				牛渡
8	推測統計Ⅳ	相関分析Ⅱ			授業後、提出課題あり	牛渡
9	推測統計Ⅴ	平均の差の検定Ⅰ				牛渡
10	推測統計Ⅵ	平均の差の検定Ⅱ			授業後、提出課題あり	牛渡
11	多変量解析Ⅰ	回帰分析Ⅰ				牛渡
12	多変量解析Ⅱ	回帰分析Ⅱ			授業後、提出課題あり	牛渡
13	多変量解析Ⅲ	回帰分析Ⅲ				牛渡
14	多変量解析Ⅳ	回帰分析Ⅳ			授業後、提出課題あり	牛渡
15	総合演習	全体の復習と総括			授業前、事前課題あり	牛渡

履 修 条 件	統計の基礎知識が必要となる。学部の2授業「調査と統計」「看護研究方法論」の内容を理解していることが望ましい。
教科書・参考図書等	<p>教科書：なし、配布プリントあり</p> <p>参考書：</p> <p>村瀬洋一・高田洋・広瀬毅士，2007，『SPSSによる多変量解析』オーム社。</p> <p>三輪哲・林雄亮，2014，『SPSSによる応用多変量解析』オーム社。</p> <p>石村友二郎，2022，『SPSSで優しく学ぶ多変量解析 [第6版]』東京図書。</p> <p>片瀬一男・阿部晃士・高橋征仁，2015，『社会統計学ベシック』ミネルヴァ書房。</p> <p>片瀬一男・阿部晃士・林雄亮・高橋征仁，2019，『社会統計学アドバンスト』ミネルヴァ書房。</p> <p>その他、授業内で適宜紹介します。</p>
成績評価方法	授業後の提出課題（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価する。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
質的研究方法特論	M11006	2 (30)	選択	1	前期	講師 牛渡亮
授業概要	<p>広く質的研究法とされるさまざまな方法について、専門的な解説・紹介を行う。人間と社会をめぐる事象における個別具体的な側面に着目し、そこにアプローチしようとする方法はさまざまある。本授業は、インタビューとフィールドワークに関する研究を中心に、それぞれの研究の手法について、その思想的背景などもふまえながら解説を行う。</p>					
到達目標	質的研究の種類と特徴を理解し、適切に使用できる。					
キーワード	社会調査、質的研究、インタビュー、フィールドワーク					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	イントロダクションⅠ	質的研究体験Ⅰ				牛渡
2	イントロダクションⅡ	質的研究体験Ⅱ				牛渡
3	質的研究の基礎Ⅰ	質的研究のデザイン				牛渡
4	質的研究の基礎Ⅱ	質的研究の「質」問題				牛渡
5	インタビューの質的記述的分析Ⅰ	インタビューの留意点				牛渡
6	インタビューの質的記述的分析Ⅱ	逐語録からカテゴリーまで①				牛渡
7	インタビューの質的記述的分析Ⅲ	逐語録からカテゴリーまで②				牛渡
8	インタビューの質的記述的分析Ⅳ	逐語録からカテゴリーまで③				牛渡
9	インタビューの質的記述的分析Ⅴ	逐語録からカテゴリーまで④				牛渡
10	インタビューの質的記述的分析Ⅵ	カテゴリーによる関連図の作成				牛渡
11	様々な質的研究Ⅰ	フィールドワークⅠ			授業前、事前課題あり	牛渡
12	様々な質的研究Ⅱ	フィールドワークⅡ			授業前、事前課題あり	牛渡
13	様々な質的研究Ⅲ	ライフストーリーとライフヒストリー			授業前、事前課題あり	牛渡
14	様々な質的研究Ⅳ	相互行為論・現象学的アプローチ・会話分析			授業前、事前課題あり	牛渡
15	総合演習	全体の復習と総括			授業前、事前課題あり	牛渡

履 修 条 件	特になし。
教科書・参考図書等	<p>教科書：なし、配布プリントあり</p> <p>参考書：</p> <p>佐藤郁哉，2015，『社会調査の考え方 [上] [下]』新曜社。</p> <p>岸政彦・石岡丈昇・丸山里美，2016，『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣。</p> <p>プシュカラ・プラサド（箕浦康子監訳），2018，『質的研究のための理論入門——ポスト実証主義の諸系譜』ナカニシヤ出版。</p> <p>ウヴェ・フリック（小田博志監訳），2011，『新版 質的研究入門—〈人間の科学〉のための方法論』春秋社。</p> <p>大谷尚，2019，『質的研究の考え方——研究方法論から SCAT による分析まで』名古屋大学出版会。</p> <p>サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真美編，2019，『質的研究法マッピング—特徴をつかみ、活用するために』新曜社。</p> <p>その他、授業内で適宜紹介します。</p>
成績評価方法	講義への参加状況（50%）とレポート（50%）によって評価する。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
医療社会学特論	M11007	2 (30)	選択	1	後期	准教授 上田耕介
授業概要	医療社会学の基礎について学修する。医療社会学の基礎を築いたのが、T. パーソンズである。パーソンズは20世紀における社会学の巨人であるが、彼は医療社会学の先駆者でもあった。彼が提示した議論は、後にはさまざまな研究者から批判を受けるところもあるが、肯定的にであれ、否定的にであれ、避けては通れない存在である。そこでパーソンズの議論（さらにはそれに対する批判）を学ぶことを通じて、医療社会学の基礎に関する理解を深める。					
到達目標	医療社会学の基礎的な議論、基本的な概念について理解を深め、それについて説明できるようにすることを目指す。					
キーワード	行為論、機能主義、価値、役割、病人、専門職、合議制アソシエーション、患者の権利					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習		担当
1	学習のための基礎知識	本講義の概要、及び、今後の学習に必要な基礎知識の解説		事前にシラバスに目を通し、授業後は配布資料を復習すること。		上田
2	パーソンズの人と学問	パーソンズの価値関心についての解説		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。		上田
3	パーソンズの学問的課題と医療社会学の始まり	パーソンズの学問的課題から医療社会学に向かう経路についての解説		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。		上田
4	行為と役割	「行為」「役割」「システム」などの基礎概念の解説		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。		上田
5	病人役割論	病人を役割と捉える議論とそれに対する批判についての解説		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。		上田
6	医師役割論	医師を役割と捉える議論とそれに対する批判についての解説		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。		上田
7	パターン変数	パーソンズ理論の代名詞「パターン変数」とその応用（人間関係や社会関係の分類）の解説		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。		上田
8	患者—医療者関係の理論化	病人・医師役割論と、精神療法の観察から導出された知見とを結合させた、患者—医療者関係に関する議論の解説		講義中に配布した資料等の復習を行うこと。		上田

9	4 機能図式の形成	パーソンズ理論のもうひとつの代名詞「4 機能図式 (AGIL 図式)」の解説	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	上田
10	現代医療組織の特徴	医療組織を「合議制アソシエーション」と捉えることの意義についての解説	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	上田
11	医療者と信託責任	現代医療組織から見た医療者の責任と、その責任を全うさせるための条件についての解説	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	上田
12	医療思想革命	1970 年代アメリカにおける医療思想革命の解説	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	上田
13	パーソンズの「死の意味づけ」論	医療思想革命の時期にパーソンズが展開した「死の意味づけ」論についての解説	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	上田
14	4 機能図式の拡張	4 機能図式の拡張についての解説	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	上田
15	人間の条件パラダイム	自然環境をも取り込もうとする、パーソンズ最晩年の理論図式についての解説	講義中に配布した資料等の復習を行うこと。	上田
履 修 条 件		特になし。		
教科書・参考図書等		高城和義『パーソンズー医療社会学の構想』岩波書店		
成績評価方法		講義への参加状況 (30%) とレポート (70%) によって評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
フィジカルアセスメント特論	M11008	2 (30)	選択	1	前期	教授 永井睦子
担当教員 職位・氏名	教授 永井睦子、土田幸子					
授業概要	対象者の健康状態および健康問題をアセスメントし、看護における臨床判断を行うために必要な知識と技術を修得する。ヘルスアセスメントにおけるコミュニケーション技術、フィジカルアセスメントの目的・方法・必要性についての理解を基盤として、適切な情報収集・分析を統合し、臨床判断を行う基礎的能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の健康状態および健康問題を把握するためのインタビューおよびフィジカルアセスメントの目的・方法・必要性について説明できる。 2. フィジカルアセスメントを活用した適切な情報収集・分析を統合し、病態の把握ができる。 3. フィジカルアセスメントで得られた情報・分析・病態の把握から、臨床判断を行う基礎的能力を身につけることができる。 					
キーワード	フィジカルアセスメント、健康状態、健康問題、包括的なアセスメント、臨床判断					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法		授 業 前 後 の 学 習	担 当	
1	フィジカルアセスメントの意義 臨床判断とは 必要な知識・技術 診査方法 バイタルサインズと身体の変化	講義・演習		授業項目の 予習	永井	
2	頭部・頸部・感覚器系のアセスメント	講義・演習		授業項目の 予習	永井	
3	呼吸器系のアセスメント	講義・演習		授業項目の 予習	土田	
4	循環器系のアセスメント	講義・演習		授業項目の 予習	土田	
5	腹部のアセスメント	講義・演習		授業項目の 予習	土田	
6	生殖器のアセスメント	講義・演習		授業項目の 予習	土田	
7	脳・神経系のアセスメント	講義・演習		授業項目の 予習	永井	
8	筋・骨格系のアセスメント	講義・演習		授業項目の 予習	永井	
9	呼吸器系・循環器系疾患が疑われる患者のフィ ジカルアセスメント	看護事例のプレゼンテーシ ョンと討議		看護事例を まとめる	土田	

10	消化器系・内分泌系疾患が疑われる患者のフィジカルアセスメント	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	土田
11	脳神経外科系疾患が疑われる患者のフィジカルアセスメント	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	永井
12	消化器外科系疾患が疑われる患者のフィジカルアセスメント	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	永井
13	フィジカルアセスメントで得られた情報・分析の統合と看護における臨床判断 事例検討①	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	共同
14	フィジカルアセスメントで得られた情報・分析の統合と看護における臨床判断 事例検討②	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	共同
15	フィジカルアセスメントで得られた情報・分析の統合と看護における臨床判断 事例検討③	看護事例のプレゼンテーションと討議	看護事例をまとめる	共同
履修条件		特になし。		
教科書・参考図書等		<p>参考図書</p> <p>山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 第2版，医学書院，2011.</p> <p>山内豊明：フィジカルアセスメントワークブック 身体の仕組みと働きをアセスメントにつなげる，医学書院，2014.</p> <p>山内豊明：緊急度を見抜く！バイタルサインからの臨床推論，医学書院，2023.</p> <p>薄井担子：ナースが視る人体，講談社，1987.</p> <p>薄井担子：ナースが視る病気，講談社，1994.</p> <p>医療情報科学研究所編：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント，メデックメディア，2019.</p> <p>その他、授業で紹介する。</p>		
成績評価方法		プレゼンテーションと討議内容 50% レポート 50%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
コンサルテーション 特論	M11009	2 (30)	選択	1	後期	教授 岡田実
授業概要	多様な臨床で展開されている高度実践看護師などによるコンサルテーションの活動から、コンサルタントに必要な専門的な役割とその能力を学修し、看護実践家として自身の所属する臨床現場において適応可能なコンサルタント的な役割を検討する。関連して、組織全体を見通すことによって、学習し変革を遂げる組織であるための問題と課題を検討し、組織における自身の役割を検討する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 自身の所属する組織が現在置かれている時代状況（経営と医療政策）を理解する。 組織が抱えているコンサルテーションのニーズを組織段階別に理解する。 看護実践の開発と看護人材育成の双方に看護研究が密接に関係していることを理解する。 所属する組織における自身の役割発揮の計画と立案ができる。 					
キーワード	病院経営、診療報酬改定、地域包括ケア、コンサルテーション（個人・チーム・管理職・看護部）、看護研究、看護実践、人材育成、専門多職種連携、病棟・病院における役割					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	精神科病院が組織として迎えている時代状況 ①	診療報酬と病院経営の課題（講義）			問題提起とディスカッション	岡田
2	精神科病院が組織として迎えている時代状況 ②	病院組織の課題（講義）			同上	岡田
3	地域包括ケアが求める医療政策と現状	地域包括ケア構想と現状（講義）			同上	岡田
4	コンサルテーションのニーズ ①	看護職個人が抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
5	コンサルテーションのニーズ ②	看護チームが抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
6	コンサルテーションのニーズ ③	病棟が抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
7	コンサルテーションのニーズ ④	中間管理職が抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
8	コンサルテーションのニーズ ⑤	看護管理者が抱える問題と課題（講義）			同上	岡田
9	学習し変革を遂げる病院における役割 ①	PDCA サイクルを回す看護実践（講義）			同上	岡田
10	学習し変革を遂げる病院における役割 ②	看護実践と看護研究の連結（講義）			同上	岡田
11	学習し変革を遂げる病院における役割 ③	看護研究と人材育成の連結（講義）			同上	岡田
12	学習し変革を遂げる病院における役割 ④	看護介入プログラムの開発（講義）			同上	岡田

13	学習し変革を遂げる病院における役割 ⑤	専門多職種との連携形態（講義）	同上	岡田
14	熟達した看護師としての役割 ①	病院組織における役割（総括）（講義）	まとめ	岡田
15	熟達した看護師としての役割 ②	看護部組織における役割（総括）（講義）	同上	岡田
履 修 条 件		特になし。		
教科書・参考図書等		<p>国分峰樹：替えがきかない人材になるための専門性の身につけ方，フォレスト出版 E.H.シャイン著，稲賀他訳：プロセス・コンサルテーション，白桃書房 E.H.シャイン著，金井他訳：問いかける技術，英治出版 E.H.シャイン著，野津智子訳：謙虚なリーダーシップ，英治出版 E.H.シャイン著，金井他訳：謙虚なコンサルティング，英治出版 A.C.エドモンドソン著，野津他訳：恐れのない組織，英治出版 P. ベナー著，井部監訳：ベナー看護論（新訳版）—初心者から達人へ，医学書院 西村ユミ著：看護実践の語り—一言葉にならない営みを言葉にする，新曜社 同上：語りかける身体—看護ケアの現象学，講談社学術文庫 同上：看護師たちの現象学—協働実践の現場から，青土社 金井壽宏・楠見孝編：実践知—エキスパートの知性，有斐閣 畑村洋太郎著：失敗学のすすめ，講談社文庫</p>		
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・課題提起時の文献の収集と検討（20%）、自身の所属組織における課題と役割に関するプレゼンテーション（20%）、及びメンバー間のディスカッションへの参加姿勢（60%）を評価します。 ・Zoomを使った遠隔授業による参加を認めます。 		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選 択の別	学年	開講 時期	科目責任者
災害看護特論	M11010	2 (30)	選択	1	後期	教授 佐藤公子
授業概要	<p>東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県をフィールドに、各国で多発する自然災害及び人為的災害（放射線等）に対して、災害時の復旧・復興期に対応する高度な専門知識、技術の理解を深め、その状況にふさわしい倫理観を身に付ける。</p> <p>また、国内外の災害現場における専門職者の講義を取り入れ、多様な災害現場における看護職の活動と災害に対する予防・減災・復旧・復興に対する看護活動について探究する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護における概念及び災害看護能力を発展させるため具体的な方法を身につけることができる。 2. 災害の歴史的背景と災害発生場所の地域診断を行い災害が生じる原因について理論的・実践的に説明できる。 3. 東日本大震災の被災地を事例に災害予防・減災・復旧・復興に対する PDCA cycle に基づいた政策提言ができる。 4. 被災地における SC (Social Capital) 醸成の事例を振り返り、看護者として SC (Social Capital) の理論に基づいた実践、課題やその解決方法を考えることができる。 5. 国内外の多様な現場における専門職者から看護職の災害活動の展望を探求できる。 					
キーワード	災害看護の概念、災害予防・減災・復旧・復興、政策提言、臨床倫理能力、Social Capital					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法	授業前後 の学習	担当		
1	災害看護の概念と必要とされる能力①	授業ガイダンス、社会疫学的視点・臨床倫理能力について（講義）	到達目標に対する自己目標を作成し講義に臨む	佐藤		
2	災害看護の概念と必要とされる能力②	被災地における SC・臨床倫理能力について（講義）	事前に講義資料を読んでおく	佐藤		
3	災害の歴史的背景と発生場所の地域診断、災害発生原因の探求①	災害発生場所の地域診断手法について（講義）	地域診断手法について講義資料を読んでおく	佐藤		
4	災害の歴史的背景と発生場所の地域診断、災害発生原因の探求②	災害発生場所の地域診断の実践（演習・GW）	事前に講義資料を読んでおく	佐藤		
5	災害の歴史的背景と発生場所の地域診断、災害発生原因の探求③	災害発生場所の地域診断の実践（演習・GW）	事前に講義資料を読んでおく	佐藤		
6	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復旧・復興に対する PDCA cycle に基づいた政策提言	PDCA cycle 及び災害予防・減災・復旧・復興の政策提言のプロセスについて・臨床倫理能力について（講義）	フェーズ 0～5-2 別災害保健活動について講義資料を読んでおく	佐藤		

7	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA cycleに基づいた政策提言の作成①	災害予防・減災・復旧・復興の政策提言を4枚のスライドにまとめる(演習・GW)	事前に講義資料を読んでおく	佐藤
8	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA cycleに基づいた政策提言の作成②	災害予防・減災・復旧・復興の政策提言を4枚のスライドにまとめる(演習・GW)	事前に講義資料を読んでおく	佐藤
9	東日本大震災地の事例を基に災害予防・減災・復旧・復興に対するPDCA cycleに基づいた政策提言の作成③	災害予防・減災・復旧・復興の政策提言を4枚のスライドにまとめる(演習・GW)	事前に講義資料を読んでおく	佐藤
10	政策提言の災害予防・減災・復旧・復興の1項目を選び実践計画書の作成	実践計画書の作成プロセス及び議会形式で行うプレゼンテーションについて(講義)	事前講義資料を読んでおく	佐藤
11	政策提言の災害予防・減災・復旧・復興の1項目を選び実践計画書を作成①	実践計画書の4枚のスライド作成(演習・GW)	事前に講義資料を読んでおく	佐藤
12	実践計画書のプレゼンテーション	実演計画書のプレゼンテーション(演習)	プレゼンテーションできるように事前準備をしておく	佐藤
13	ゲストスピーカーによる実践活動の探求①	ゲストスピーカーによる講義及び討議	ゲストスピーカーの活動内容について事前に把握しておく	佐藤 ゲストスピーカー
14	ゲストスピーカーによる実践活動の探求②	ゲストスピーカーによる講義及び討議	ゲストスピーカーの活動内容について事前に把握しておく	佐藤 ゲストスピーカー
15	まとめ 到達目標の評価	まとめ 到達目標の評価(講義)	事前に到達目標の評価をしておく	佐藤
履修条件		特になし。		
教科書・参考図書等		カワチイチロー他, 2017, 『社会疫学「上・下」』, 大修館書店 カワチイチロー他, 2008, 『ソーシャル・キャピタルと健康』, 日本評論社 御厨貴, 2016, 『大震災復興過程の政策分析』 ミネルヴァ書房 麻原きよみ他, 2018, 『保健師と放射線』 真興交易(株) 医書出版部 その他、担当講師が準備する資料		
成績評価方法		プレゼンテーション(30%)、グループワークへの参加度(30%)、レポート(40%)から評価する		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
看護学教育特論	M11011	2 (30)	必修	1	前期	教授 永井睦子
担当教員 職位・氏名	教授 永井睦子、濱中喜代、土田幸子、江守陽子 准教授 石井真紀子					
授業概要	看護職における看護基礎教育と継続教育の現状と課題について理解を深め、看護職への教育のあり方について探究する。具体的には、日本の看護教育制度の特徴、看護教育カリキュラムの変遷と課題、生涯学習の観点から、成人学習に関する教育方法の基礎的理論を学ぶとともに、看護基礎教育及び看護継続教育における教育プログラムの作成・教育内容・教材開発・教育評価の方法や留意点について学修する。 さらに、保健師助産師看護師学校養成所指定規則における教育の基本的な方向性、わが国の医療政策と看護教育課程に及ぼす影響、これからの看護の機能と教育のあり方などについても考察する。					
到達目標	1. 看護教育制度の現状について説明できる。 2. 看護学教育の課題について自分の考えが説明できる。 3. 主体的な学びを支援するような教育的関わりについて説明できる。 4. 教育評価について説明できる。 5. 授業及び看護実習指導のあり方について考えることができる。 6. 成人学習者の特徴を理解し、説明することができる。					
キーワード	看護教育制度、看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育、教育方法、教育評価、成人学習					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	人間の成長発達と教育、教育の基本的考え方	人間の成長発達における教育教育とはどのようなことか 看護と教育の同形性 講義		事前・事後 の自己学習	永井	
2	日本の看護教育制度の特徴 看護教育にかかわる法律・規則	学校教育法、施行規則、設置基準、指定規則、ガイドライン等 講義		事前・事後 の自己学習	永井	
3	日本の看護教育の歴史	社会の変遷と看護教育の変遷 これからの看護教育 講義		事前・事後 の自己学習	土田	
4	看護基礎教育の現状と課題	教育の現状と課題の明確化 講義、グループワーク		事前・事後 の自己学習	土田	
5	看護卒後教育の現状と課題 看護卒後教育の特徴 大学院教育、専門看護師・認定看護師・特定 看護師	看護卒後教育の現状と課題の 明確化 講義		事前・事後 の自己学習	永井	
6	看護継続教育の現状と課題 看護継続教育の特徴 現任教育、院内教育、院外教育(職能団体等 の研修)	看護継続教育の現状と課題の 明確化 講義、グループワー ク		事前・事後 の自己学習	永井	
7	看護教育方法①: 授業案の作り方/授業の展開	授業展開論、学習のレディネ ス 講義		事前・事後 の自己学習	石井	

8	看護教育方法②：学内演習、看護技術教育	授業形態と教育方法 講義	事前・事後の自己学習	石井
9	看護教育方法③：臨床実習指導	看護学実習の位置づけと目的 看護学実習の課題 講義	事前・事後の自己学習	濱中
10	看護教育方法④：臨床実習指導	各自の実習指導経験について プレゼンテーション・討議	事前・事後の自己学習	濱中
11	看護教育評価 教育評価の意義、方法、実際	教育課程の評価、教授活動の 評価、学生の授業評価 講義	事前・事後の自己学習	江守
12	わが国の医療政策と看護学教育の関係	わが国の医療提供体制と現状、 医療施設の再編と看護教育への影響、 医療政策と医療従事者の育成 講義	事前・事後の自己学習	江守
13	成人学習者の特徴と学習理論①	成人学習者の特徴と傾向 成人の生涯学習 講義	事前・事後の自己学習	石井
14	成人学習者の特徴と学習理論②	成人教育とは何か ペダゴジーとアンドラゴジーの比較 講義、プレゼンテーション、 グループワーク	事前・事後の自己学習	石井
15	まとめ 看護教育者としての資質向上に向けた取組み 生涯学習者としての課題と展望	学修成果の共有 講義・プレゼンテーション・ 討議	事前・事後の自己学習	永井
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		参考図書 杉森みど里・舟島なをみ（2024）『看護教育学 第8版』医学書院 グレグ美鈴、池西悦子編（2024）『看護教育学 改訂第3版 看護を学ぶ自分と向き合う』南江堂 目黒悟(2016)『教えることの基本となるもの；「看護」と「教育」の同型性』メヂカルフレンド社 目黒悟(2010)『看護教育を拓く授業リフレクション；教える人の学びと成長』メヂカルフレンド社 その他、授業で紹介する		
成績評価方法		授業態度（20%）、グループワーク参加度（40%）、課題学習（20%）、レポート（20%）によって評価する。		

專 門 科 目

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
基礎看護学特論 I (看護援助学特論)	M21001	2 (30)	選択	1	前期	教授 永井睦子
授業概要	看護の基礎的概念や看護の基礎となる理論を理解し、自己の看護実践を合わせて検討することで、「看護とは何か」「看護の基礎とは何か」を探究する。看護実践や看護教育で活用されている看護論や看護理論について検討し、看護の基礎となり看護の質の向上に資する創造的な看護を探究する姿勢を養う。看護理論の中から、自身の関心の高い看護理論・看護論を選択し理解と考察を深めていくことで、看護理論と看護実践の関係を探究する。また、看護の基礎を学ぶ学習体験としての看護学実習と看護理論の関係を検討し考察する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の基礎的概念や看護の基礎となる理論を理解することができる。 2. 看護実践や看護教育で活用されている看護論や看護理論について検討することができる。 3. 自身の関心の高い看護理論・看護論を考察することができる。 4. 看護の基礎を学ぶ看護学実習と看護理論の関係を考察することができる。 5. 看護理論と自己の看護実践を合わせて検討することで、「看護とは何か」「看護の基礎とは何か」について探究する姿勢を持つことができる。 					
キーワード	看護の基礎的概念 看護理論 看護実践					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法		授 業 前 後 の 学 習	担 当	
1	看護・看護学の発展 看護の基礎的概念	授業ガイダンス 講義		授業項目の事前学習	永井	
2	看護学における知の構造	文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	永井	
3	看護論・看護理論の発展	文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	永井	
4	日本における看護・看護学の発展	文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	永井	
5	看護理論の分類 大理論・中範囲理論・実践理論	文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	永井	
6	近代看護の始まりとしての看護理論	文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	永井	
7	関心のある看護理論の検討①	文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	永井	
8	関心のある看護理論の検討②	文献のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	永井	
9	関心のある看護理論と看護実践の検討①	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	永井	
10	関心のある看護理論と看護実践の検討②	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	永井	

11	看護の基礎を学ぶ看護学実習の特徴	文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	永井
12	看護の基礎を学ぶ看護学実習と看護理論	文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	永井
13	看護の基礎を学ぶ看護学実習における看護理論と看護過程	文献のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	永井
14	「看護とは何か」「看護の基礎とは何か」についての検討①	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	永井
15	「看護とは何か」「看護の基礎とは何か」についての検討②	文献と看護事例のプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	永井
履修条件		特になし。		
教科書・参考図書等		筒井真優美編集：看護理論家の業績と理論評価 第2版，医学書院，2020. 湯楨ます監修，薄井担子他編訳：ナイチンゲール著作集 第1巻～第3巻，現代社，1974～1977. 小玉香津子訳：ヴァージニア・ヘンダーソン選集・看護に優れるとは，医学書院，2007. ヴァージニア・ヘンダーソン没後20年／生誕120年記念コレクション，日本看護協会出版会，2018. 松木光子監訳：ザ・ロイ適応看護モデル 第2版，医学書院，2010. 薄井担子：科学的看護論 第3版，日本看護協会出版会，2014. 授業で紹介する		
成績評価方法		プレゼンテーションと討議内容70% レポート30%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
基礎看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M21002	2 (30)	選択	1	後期	教授 永井睦子
授業概要	看護活動の場で実践されている看護援助技術についての理解を深める。すなわち、環境を調整する技術、活動・休息を支援する技術、身体の清潔を支援する技術、食事・栄養摂取を支援する技術、排泄を支援する技術、薬物療法に関する技術、健康学習を支援するなど、基礎看護学で重要な看護援助技術に関する文献からエビデンスを確認し、自身の看護体験と合わせて、よりよい看護援助技術について考察する。さらに自身の関心のある看護援助技術についてのエビデンスを検討することで、より質の高い看護援助技術について探究する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護援助技術のエビデンスを検討することができる。 2. エビデンスを確認し自身の看護体験と合わせて、よりよい看護援助技術について考察することができる。 3. 関心のある看護援助技術についてのエビデンスを検討することで、より質の高い看護援助を探究する姿勢を持つことができる。 					
キーワード	看護援助技術 エビデンス					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	看護援助技術とは エビデンスに基づく看護技術研究の変遷	プレゼンテーションと討議			授業項目の 予習	永井
2	環境を調整する技術	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議			看護体験を まとめる	永井
3	活動を支援する技術	文献のプレゼンテーションと討議			授業項目の 予習	永井
4	休息を支援する技術	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議			看護体験を まとめる	永井
5	身体の清潔を支援する技術	文献のプレゼンテーションと討議			授業項目の 予習	永井
6	身体の清潔が心身に及ぼす影響	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議			看護体験を まとめる	永井
7	食事・栄養摂取を支援する技術	文献のプレゼンテーションと討議			授業項目の 予習	永井
8	経口からの食事・栄養摂取が心身に及ぼす影響	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議			看護体験を まとめる	永井
9	排泄を支援する技術	文献のプレゼンテーションと討議			授業項目の 予習	永井
10	自然な排泄が心身に及ぼす影響	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議			看護体験を まとめる	永井
11	薬物療法に関する技術 エビデンスに基づく安全な与薬	文献のプレゼンテーションと討議			授業項目の 予習	永井

12	健康への学習を支援する技術	文献のプレゼンテーションと討議	授業項目の予習	永井
13	関心のある看護援助技術に関するエビデンスの検討①	文献のプレゼンテーションと討議	授業項目の予習	永井
14	関心のある看護援助技術に関するエビデンスの検討②	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議	看護体験をまとめる	永井
15	関心のある看護援助技術に関するエビデンスの検討③	自身の看護体験のプレゼンテーションと討議	看護体験をまとめる	永井
履修条件		特になし。		
教科書・参考図書等		川島みどり：生活行動援助の技術 第3版，看護の科学社，2014. 川島みどり：目で見える患者援助の基本 第2版，医学書院，1985. 授業で紹介する。		
成績評価方法		プレゼンテーション及び討議内容 70% レポート 30%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
基礎看護学演習 I	M21003	2 (30)	選択	1	前期	教授 永井睦子
担当教員 職位・氏名	教授 永井睦子 准教授 石井真紀子					
授業概要	文献検索に必要な知識と技術を学修し、文献のクリティークを行う能力を養う。看護実践で行われている看護技術のエビデンスに関する文献及び「看護理論特論」、「基礎看護学特論Ⅰ」、「基礎看護学特論Ⅱ」で学修する内容と関連のある文献について、量的研究・質的研究のクリティークを行い、それぞれの特徴や研究成果・課題を考察する。					
到達目標	1. 文献検索に必要な知識と技術を修得することができる。 2. 看護技術のエビデンス等に関する文献のクリティークを行うことができる。 3. 量的研究と質的研究のクリティークを通して、それぞれの特徴や研究成果・課題を考察することができる。					
キーワード	看護実践、看護技術、文献検索、文献のクリティーク					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	看護技術についての文献検討 (文献検索に必要な知識と技術)	文献検索に必要な知識と技術 のプレゼンテーションと討議		プレゼンテ ーションの 準備	共同	
2	看護技術についての文献検討 (文献検索の実際)	文献のプレゼンテーションと 討議		プレゼンテ ーションの 準備	共同	
3	看護技術についての文献のクリティーク	文献のクリティークに関する プレゼンテーションと討議		プレゼンテ ーションの 準備	共同	
4	看護技術のエビデンスに関する基礎的研究の クリティーク	文献のクリティークに関する プレゼンテーションと討議		プレゼンテ ーションの 準備	共同	
5	看護技術のエビデンスに関する臨床研究のク リティーク	文献のクリティークに関する プレゼンテーションと討議		プレゼンテ ーションの 準備	共同	
6	量的研究のクリティーク	量的研究のクリティークに関 するプレゼンテーションと討 議		プレゼンテ ーションの 準備	共同	
7	看護実践の実態調査に関する量的研究のク リティーク	量的研究の文献のクリティ ークに関するプレゼンテーシ ョンと討議		プレゼンテ ーションの 準備	共同	
8	看護実践に関する量的研究のクリティーク	量的研究の文献のクリティ ークに関するプレゼンテーシ ョンと討議		プレゼンテ ーションの 準備	共同	

9	質的研究のクリティーク	質的研究のクリティークに関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
10	看護実践に関する質的研究のクリティーク①	質的研究の文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
11	看護実践に関する質的研究のクリティーク②	質的研究の文献のクリティークに関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
12	看護理論を活用した研究のクリティーク①	看護理論を活用した研究のクリティークに関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
13	看護理論を活用した研究のクリティーク②	看護理論を活用した研究のクリティークに関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
14	看護学実習に関する研究のクリティーク①	看護学実習に関する研究のクリティークに関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
15	看護学実習に関する研究のクリティーク②	看護学実習に関する研究のクリティークに関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	共同
履修条件		基礎看護学特論Ⅰを履修していること。		
教科書・参考図書等		「看護理論特論」「基礎看護学特論Ⅰ」「基礎看護学特論Ⅱ」「看護研究方法特論」で使用する参考書及び文献		
成績評価方法		プレゼンテーションと討議内容 70% レポート 30%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
基礎看護学演習Ⅱ	M21004	2 (30)	選択	1	後期	教授 永井睦子
授業概要	基礎看護学特論Ⅰ・Ⅱ及び基礎看護学演習Ⅰの学修で得られた、看護の基礎となる学習や研究論文のクリティークをふまえて、自己の関心のあるテーマに関する国内外の研究論文から知見を深め、研究成果や課題を考察する。また、研究計画書の作成に向けて自己の研究課題を明確化し、研究デザイン・研究方法等を検討することで、研究遂行能力を養う。					
到達目標	1. 関心のあるテーマ文献のクリティークを行い、研究成果や課題を考察することができる。 2. 研究計画書を作成することができる。					
キーワード	クリティーク、研究課題、研究デザイン、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	自己の関心のあるテーマに関する国内外の文献検索とクリティーク	授業ガイダンス 文献のプレゼンテーションと討議の方法		文献検索・プレゼンテーションの準備	永井	
2	自己の関心のあるテーマに関する国内研究論文のクリティーク①	国内研究論文のプレゼンテーションと討議		文献検索 プレゼンテーションの準備	永井	
3	自己の関心のあるテーマに関する国内研究論文のクリティーク②	国内研究論文のプレゼンテーションと討議		文献検索 プレゼンテーションの準備	永井	
4	自己の関心のあるテーマに関する国内研究論文のクリティーク③	国内研究論文のプレゼンテーションと討議		文献検索 プレゼンテーションの準備	永井	
5	自己の関心のあるテーマに関する国外研究論文のクリティーク①	国外研究論文のプレゼンテーションと討議		文献検索 プレゼンテーションの準備	永井	
6	自己の関心のあるテーマに関する国外研究論文のクリティーク②	国外研究論文のプレゼンテーションと討議		文献検索 プレゼンテーションの準備	永井	
7	自己の関心のあるテーマに関する国内外の研究論文の研究成果と課題	研究成果と課題のプレゼンテーションと討議		文献検索 プレゼンテーションの準備	永井	
8	研究計画書の作成① 研究課題の明確化	研究課題に関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	永井	
9	研究計画書の作成② 研究の理論的枠組みの検討	研究の理論的枠組みに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	永井	
10	研究計画書の作成③ 研究デザイン	研究デザインに関するプレゼンテーションと討議		プレゼンテーションの準備	永井	

11	研究計画書の作成④ 研究対象	研究対象に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	永井
12	研究計画書の作成⑤ 調査内容	調査内容に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	永井
13	研究計画書の作成⑥ データ収集方法	データ収集方法に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	永井
14	研究計画書の作成⑦ データ分析方法	データ分析方法に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	永井
15	研究計画書の作成⑧ 倫理的配慮の検討	研究の倫理的配慮に関するプレゼンテーションと討議	プレゼンテーションの準備	永井
履 修 条 件		基礎看護学特論Ⅱを履修していること。		
教科書・参考図書等		テキストの指定はしない。参考図書、文献は随時紹介する。		
成績評価方法		プレゼンテーションと討議内容 50% 研究計画書 50%		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
地域看護学特論 I (看護援助学特論)	M21005	2 (30)	選択	1	前期	教授 佐藤公子
授業概要	様々なライフサイクル、様々な健康レベルの個人・集団・コミュニティを対象とした地域看護活動のあり方について学ぶ。コミュニティ概念の理解、地域の健康課題を明らかにするための情報収集とアセスメントの方法、活動計画、実施、評価方法について、文献講読、保健統計データの解読、討議等を通じて理解を深める。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会で生活を営んでいる様々な対象者の保健・福祉・医療制度について説明することができる。 2. 国内外の地域社会で生活を営んでいる様々な対象者の保健・福祉・医療制度について説明することができる。 3. 個人・家族へのアプローチとコミュニティへのアプローチの連続性・統合を理解する。 4. プレゼンテーションのスキルを身につける (見やすい資料、分かり易い報告) 					
キーワード	コミュニティアズパートナー、ヘルスプロモーション、公衆衛生、地域生活者					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、2	オリエンテーション、地域看護学の定義と特徴	1. オリエンテーション 2. 地域看護学の定義 3. 地域看護学の特徴		到達目標に対する自己目標を作成し講義に臨む	佐藤	
3、4	地域・コミュニティの定義と看護活動	1. 地域・コミュニティの定義 2. 地域・コミュニティと人々の健康との関連性		事前に講義資料を読んでおく	佐藤	
5、6	個人を対象とした地域看護活動(1)	1. 個人を対象としたヘルスプロモーションの理念と活動 2. ヘルスプロモーション理論の理解		事前に講義資料を読んでおく	佐藤	
7、8	個人を対象とした地域看護活動(2)	ヘルスプロモーション看護論を用いた事例分析 (演習・GW)		事前に講義資料を読んでおく	佐藤	
9、10	集団を対象とした看護活動(1)	1. 集団を対象としたヘルスプロモーションの理念と活動 2. PRECEDE-PROCEED モデルの理解		事前に講義資料を読んでおく	佐藤	
11、12	集団を対象とした看護活動(2)	1. PRECEDE-PROCEED モデルを用いた事例の分析		事前に講義資料を読んでおく	佐藤	
13	地域を対象とした看護活動(1)	1. 地域を対象としたヘルスプロモーションの理念と活動 2. コミュニティアズパートナーモデル(アンダーソン)の理解		事前に講義資料を読んでおく	佐藤	

14、15	地域を対象とした看護活動(2)	1. コミュニティアズパートナーモデルによる健康課題の分析 2. 各自研究テーマに関連する健康課題の分析と介入方法の検討(例:災害のテーマの学生は、災害の発生状況について保健所のデータの理解や地域アセスメントを行い、介入計画[目標、方法、評価方法等]の立案を試みる。)	事前に到達目標の評価をしておく	佐藤
履 修 条 件	特になし。			
教科書・参考図書等	ノラ J.ペンダー著・小西恵美子監訳, 1997, ペンダーヘルスプロモーション看護論, 日本看護協会出版会 ローレンス W.グリーン・マーシャル W. クロイター著, 2005, 神馬征峰監訳, 実践ヘルスプロモーション, PRECEDE-PROCEED モデルによる企画と評価, 医学書院 Elizabeth T.Anderson, Judith McFarlane(Ed), 金川克子・早川和生監訳, 2007, コミュニティアズパートナー: 地域看護の理論と実際, 第2版, 医学書院 金川克子編, 2011, 域看護診断, 東京大学出版会			
成績評価方法	プレゼンテーション (30%)、グループワークへの参加度 (30%)、レポート (40%) から評価する			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
地域看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M21006	2 (30)	選択	1	後期	教授 佐藤公子
授業概要	地域や集団を単位とした地域ケアシステム構築に係る既存の概念・理論について理解を深める。また、地域アセスメントを基に地域住民の個別の健康・生活課題を地域全体の健康・生活課題へと発展させ、社会資源の活用と開発、施策化について考察する。これらを通して地域ケアシステムについて探求する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生を基盤とした保健師活動について、理論モデルから説明できる。 2. 看護職としての指導・支援・相談方法論について、既存の理論を基に研究・開発方法について説明できる。 3. 健康・生活課題課に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発、施策化の方向性を理解できる。 4. 健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの立案ができる。 					
キーワード	地域ケアシステム、地域診断、健康・生活課題の抽出、社会資源の開発、施策化の方向性					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、2	地域ケアシステム構築に関する概念及び理論	授業ガイダンス、地域ケアシステムの発展過程について (講義)		到達目標に対する自己目標を作成し講義に臨む 事前に講義資料を読んでおく	佐藤	
3、4	地域アセスメント理論 (community as partner model, PRECEDE-PROCEED model) による健康・生活課題の抽出	公衆衛生看護活動論：理論活用の意義、個人・家族・特定集団・地域に対する理論と応用		事前に講義資料を読んでおく	佐藤	
5、6	健康・生活課題の抽出から地域ケアサービスの質の保証	地域看護学と公衆衛生看護学の役割		事前に講義資料を読んでおく	佐藤	
7、8	地域ケアサービスの質の向上を図るための施策化の方向性	公衆衛生看護の概念・枠組み・理論、行政施策		事前に講義資料を読んでおく	佐藤	
9、10	健康・生活課題に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発	公衆衛生看護の活動の視点：保健師活動の特性、ヘルスプロモーションの考え方などから適切な課題を選出する		事前に講義資料を読んでおく	佐藤	
11、12	社会資源の開発に必要とされる施策化の方向性	公衆衛生看護の概念・枠組み・理論、行政施策		事前に講義資料を読んでおく	佐藤	
13、14	参考事例を基に課題を解決するための地域ケアシステムの立案	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢化社会における健康寿命の年次推移と地域分布の評価 2. 国民生活基礎調査の匿名データ等を利用する研究 		事前に講義資料を読んでおく	佐藤	

15	参考事例を基に課題を解決するための地域ケアシステムの提言 まとめ 到達目標の評価	参考事例を基に課題解決するための地域ケアシステムの提言について4枚のスライドでプレゼンテーションする まとめ 到達目標の評価（演習・GW）	プレゼンテーションできるように事前に準備しておく 事前に到達目標の評価をしておく	佐藤
履修条件	特になし。			
教科書・参考図書等	近藤克則, 2019, 健康格差社会への処方箋, 医学書院 近藤克則, 2022, 健康格差社会第2版—何が心と健康を蝕むのか—医学書院 近藤尚己, 2016, 『介護予備活動のための地域診断データの活用と組織連携ガイド 地域包括ケアの推進に向けて』, 株式会社 三響社 その他、担当講師が準備する資料			
成績評価方法	プレゼンテーション (30%)、グループワークへの参加度 (30%)、レポート (40%) から評価する			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
地域看護学演習 I	M21007	2 (30)	選択	1	前期	教授 佐藤公子
授業概要	地域社会で生活を営んでいる様々な対象者がもつ健康問題や環境に対してアセスメントする能力を養う。また、生活者の強みを引き出すケアマネジメント能力と看護上生じる倫理的問題について検討・考察する能力を養う。これらの過程を通して研究課題の明確化を図る。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究課題について、在宅療養者の支援に関する看護研究論文をクリティークし、研究の意義・限界・課題を明確にし、発表することができる。 2. 自らの研究テーマに関連する先行研究についてレビューし発表できる。 3. 自らの研究テーマの意義及び位置づけを明確にでき、適切な研究方法を選択できる。 4. 他の学生の発表内容を理解し、質問や討論ができる。 					
キーワード	論文講読、クリティーク、研究意義、研究課題、研究テーマ					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1.2	生活習慣病予防看護領域の国内外の文献レビューの検索方法と考え方	生活習慣病予防看護領域の国内外の文献レビューによる考察を深め、ライフストーリーの分析をもとに予防的看護活動における学生自らの興味・関心のある研究に関連する概念や理論を探究する。		授業内容に関するプレゼンテーション資料の作成並びに関連する文献収集と文献リストを作成する。自らの研究課題に関する原著論文を計画的に収集し文献リストを作成する。到達目標に対する自己目標を作成し講義に臨む	佐藤	
3~8	母子・成人・老年の健康問題・環境に対する地域看護活動の展開（個人・家族・集団への保健ケア）	住民との協働による地域づくりに向けて、先行研究をふまえ、地域住民のグループ育成やネットワーク構築の支援方法を学び、院生自らの興味・関心のある研究に関連する概念や理論を探究する。			佐藤	
9	母子～老年期の健康課題と文献レビューによる考察	研究論文と今後の研究への取り組み（演習・GW）			佐藤	
10～11	生活者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力に関する地域看護活動の展開と技術開発（個人・家族・集団への保健ケア）①	地域で実践されている生活習慣病予防システム、住民主体の地域ヘルスケアシステム、高齢者ケアシステム、介護予防システムにおいて、行政機関に勤務する保健師など専門職及び事務職と共に、課題の抽出・分析、システムの改革・構築の試案を作成、実践・検証する。		討議	佐藤	
12、13	療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力に関する地域看護活動の展開と技術開発（個人・家族・集団への保健ケア）②			討議	佐藤	
14	地域における地域看護の展開の検討	地域における地域看護の展開事例を元に理想的な地域看護活動あり方について考える。（演習・GW）		論文講読 発表準備	佐藤	

15	地域看護上生じる倫理的問題に関する研究論文のクリティーク まとめ 到達目標の評価	看護上生じる倫理的問題に関連する研究論文の発表と討議 まとめ 到達目標の評価 (講義・演習・GW)	プレゼン 事前に到達目標の評価をしておく	佐藤
履修条件	地域看護学特論 I を履修していること。			
教科書・参考図書等	宮本ふみ,2006,無名の語り,医学書院. 牧本清子 山川みやえ,2020,よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版,日本看護協会出版会. その他、担当教員が準備する資料			
成績評価方法	プレゼンテーション (30%)、グループワークへの参加度 (30%)、レポート (40%) から評価する			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
地域看護学演習Ⅱ	M21008	2 (30)	選択	1	後期	教授 佐藤公子
授業概要	自己の研究課題に焦点をあて、その研究の課題を解明するための理論的枠組みについて方法論の正当性や実現可能性について検討する。課題に即した研究デザイン、研究計画を採用する過程を通して自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の研究課題について、地域ケアシステムに関する看護研究論文をクリティークし、研究の意義・限界・課題を明確にし、発表することができる。 2. 自らの研究テーマの意義及び位置づけを明確にでき、適切な研究方法を選択できる。 3. 他の学生の発表内容を理解し、質問や討論ができる。 					
キーワード	文献検索、文献購読、文献要約、研究デザイン、研究計画					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、2	生活習慣病・介護予防を目的とした地域ケアシステム構築に関する研究のレビュー	生活習慣病・介護予防を目的とした地域ケアシステム構築に関する研究のレビューを行う。地域ヘルスケアシステム構築に関する概念や理論をもとに、組織分析のための計画の立案を行い、学生自身の関心領域における看護実践活動を通じた研究課題を探究する。		到達目標に対する自己目標を作成し講義に臨む	佐藤	
3、4					佐藤	
5、6					佐藤	
7、8	高齢者やその家族に対する看護援助や高齢者ケアシステムの充実・発展、介護予防に関する地域ケアシステム構築の検討	高齢者やその家族に対する看護援助や高齢者ケアシステムの充実・発展、介護予防に関する地域ケアシステム構築に関する研究をレビューし、高齢者ケアシステム、介護予防に関する地域ケアシステム構築に関する概念や理論をもとに、院生自身の関心領域における看護実践活動を通じた研究課題を探究する。		論文検討 抄読	佐藤	
9、10	健康・生活課題に活用できる社会資源と必要となる社会資源の開発に関する研究論文検討①				佐藤	
11、12	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関する研究論文検討②				佐藤	
13、14	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関する研究論文のクリティーク②	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関連する研究論文の発表と討議② (演習・GW)		論文講読 発表準備	佐藤	

15	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関する研究論文のクリティーク③ まとめ 到達目標の評価	健康・生活課題を解決するための地域ケアシステムの構築に関する研究論文の発表と討議③ まとめ 到達目標の評価 (講義・演習・GW)	論文講読 発表準備 事前に到達目標の評価をしておく	佐藤
履 修 条 件	地域看護学特論Ⅱを履修していること。			
教科書・参考図書等	近藤尚己,2016,『介護予備活動のための地域診断データの活用と組織連携ガイド 地域包括ケアの推進に向けて』,株式会社 三響社 牧本清子 山川みやえ,2020,『よくわかる看護研究論文のククリティーク 第2版』日本看護協会出版会 その他、担当講師が準備する資料			
成績評価方法	プレゼンテーション (30%)、グループワークへの参加度 (30%)、レポート (40%)から評価する			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
在宅看護学特論 I (看護援助学特論)	M21009	2 (30)	選択	1	前期	准教授 越納美和
授業概要	地域包括ケアシステムについて整理し、在宅看護の役割を考察する。さらに、小児から高齢者までの在宅における看護実践のためのケアマネジメントについて、一連の過程を理解し、関連する理論や方法を学修する。					
到達目標	1. 地域包括ケアシステムと在宅看護の役割について述べるができる。 2. 小児から高齢者までの在宅における看護実践のためのケアマネジメントの一連の過程を理解し、必要な社会資源について討議できる。					
キーワード	地域包括ケアシステム、社会資源、ケアマネジメント、在宅ケア					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1、2	在宅看護を取り巻く保健医療福祉制度の 動向	授業ガイダンス、在宅看護に関連 する保健医療福祉制度の変遷と 現状（講義及び討議）			配布資料の 事前学習	越納
3、4	訪問看護制度、 看護小規模多機能型居宅介護	訪問看護と看護小規模多機能型 居宅介護の制度及び現状 （講義及び討議）			配布資料の 事前学習	越納
5、6	介護保険制度	介護保険制度の変遷と現状 （講義及び討議）			配布資料の 事前学習	越納
7、8	在宅療養者が活用できる福祉制度	在宅療養者が活用できる福祉制 度の変遷と現状 （講義及び討議）			配布資料の 事前学習	越納
9	高齢者のケアマネジメントの展開	在宅における高齢者支援のアセ スメント、ケアプラン作成、モニ タリングの特徴（講義及び討議）			配布資料の 事前学習	越納
10、11	高齢者のケアマネジメントの実際 －事例を用いた展開－	在宅における高齢者支援のアセ スメント、ケアプラン作成の事例 展開（講義及び討議）			配布資料の 事前学習	越納
12、13	障害児・者のケアマネジメントの実際 －事例を用いた展開－	在宅における障害児・者のアセ スメント、ケアプラン作成の事例展 開（講義及び討議）			配布資料の 事前学習	越納
14、15	在宅看取りのケアマネジメントの実際 －事例を用いた展開－	在宅看取りの事例展開 （講義及び討議）			配布資料の 事前学習	越納
履 修 条 件	特になし。					
教科書・参考図書等	その都度紹介する。					
成績評価方法	授業態度（20%）、プレゼンテーション（20%）、グループワークへの参加度（20%）、 課題提出物（20%）、レポート（20%）から評価する。					

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
在宅看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M21010	2 (30)	選択	1	後期	准教授 越納美和
授業概要	在宅における療養者や家族の心理的、身体的健康課題及び訪問看護ステーションや入退院支援に関する看護師の役割と課題、在宅看取りと意思決定支援について、文献や事例を通して分析し、アセスメントするための能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検索システムを用い、文献探索ができる。 2. 論文を購読し、研究内容を要約して口頭で紹介することができる。 3. 講読論文解説を聞いて理解し、疑問点や当該研究の意義について討論することができる。 					
キーワード	文献検索、文献講読、文献要約					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1、2	在宅療養者と家族の支援と看護①	授業ガイダンス、文献検索法、文献紹介、文献レビュー (講義と演習)			関連文献の講読、発表準備	越納
3、4	在宅療養者と家族の支援と看護②	文献レビュー、プレゼンテーションと討議			関連文献の講読、発表準備	越納
5、6	訪問看護ステーションの課題と看護	プレゼンテーションと討議			関連文献の講読、発表準備	越納
7、8	入退院支援と退院調整における課題と看護	プレゼンテーションと討議			関連文献の講読、発表準備	越納
9、10	在宅看取りと意思決定支援に関する課題と看護	プレゼンテーションと討議			関連文献の講読、発表準備	越納
11、12	地域包括ケアシステムにおける看護師の役割	プレゼンテーションと討議			関連文献の講読、発表準備	越納
13、14	多職種連携の基盤構築と看護	プレゼンテーションと討議			関連文献の講読、発表準備	越納
15	まとめ	課題レポート作成 (講義と演習)			文献整理	越納
履修条件	特になし。					
教科書・参考図書等	その都度紹介する。					
成績評価方法	授業態度 (20%)、プレゼンテーション (20%)、グループワークへの参加度 (20%)、課題提出物 (20%)、レポート (20%) から評価する。					

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
在宅看護学演習 I	M21011	2 (30)	選択	1	前期	准教授 越納美和
授業概要	在宅における小児から高齢者を対象とした看護及び家族支援について、国内外の文献や事例を分析することにより、地域で暮らす人々に対する看護活動の方策について考察を深める。また、科学的思考を実践に生かすために、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について学修する。それによって、在宅看護学領域の看護実践研究の基礎的能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護に関する看護研究論文をクリティークし、研究の意義・限界・課題を明確にし発表できる。 2. 自らの研究テーマに関連する先行研究についてレビューし発表できる。 3. 自らの研究テーマの意義及び位置づけを明確にでき、適切な研究方法を選択できる。 4. 他の学生の発表内容を理解し、質問や討論ができる。 					
キーワード	論文講読、クリティーク、研究意義、研究課題、研究テーマ					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1、2	在宅療養者の意思決定支援 I	研究論文のクリティーク (発表と討議)			論文講読 発表準備	越納
3、4	在宅療養者の意思決定支援 II	研究論文のクリティーク (発表と討議)			論文講読 発表準備	越納
5、6	在宅療養者の家族支援 I	研究論文のクリティーク (発表と討議)			論文講読 発表準備	越納
7、8	在宅療養者の家族支援 II	研究論文のクリティーク (発表と討議)			論文講読 発表準備	越納
9、10	在宅ケアに関わる看護師の課題 I	研究論文のクリティーク (発表と討議)			論文講読 発表準備	越納
11、12	在宅ケアに関わる看護師の課題 II	研究論文のクリティーク (発表と討議)			論文講読 発表準備	越納
13、14	在宅ケアの周辺課題 I	研究論文のクリティーク (発表と討議)			論文講読 発表準備	越納
15	在宅ケアの周辺課題 II	研究論文のクリティーク (発表と討議)			論文講読 発表準備	越納
履修条件	在宅看護学特論 I を履修していること。					
教科書・参考図書等	随時紹介する。					
成績評価方法	授業の到達目標の達成状況 (40%)、授業内での発表内容 (30%)・参加状況 (30%) によって判断する。					

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
在宅看護学演習Ⅱ	M21012	2 (30)	選択	1	後期	准教授 越納美和
授業概要	在宅療養者や家族の支援について広義に理解し、根拠に基づいた支援を提供する方法を学修する。さらに、関連領域の最新の研究内容及び看護実践等の分析や、批判的評価を通して、自らの研究テーマを導き出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することによって、自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心のある分野に関する文献を系統的に検索し、客観的なクリティークができる。 2. 自らが取り組むべき研究課題を明らかにすることができる。 3. 自らの研究課題に関する基本概念を整理し、発表することができる。 4. 取り組もうとする研究の意義を発表することができる。 5. 研究課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することができる。 					
キーワード	リサーチクエスト、研究デザイン、研究倫理、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、2	在宅看取りと意思決定支援Ⅰ	研究論文のクリティーク (発表と討議)		論文講読 発表準備	越納	
3、4	在宅看取りと意思決定支援Ⅱ	研究テーマの可能性と研究 計画試案 演習		論文講読 発表準備	越納	
5、6	在宅療養者の家族支援と看護Ⅰ	研究論文のクリティーク (発表と討議)		論文講読 発表準備	越納	
7、8	在宅療養者の家族支援と看護Ⅱ	研究テーマの可能性と研究 計画試案 演習		論文講読 発表準備	越納	
9、10	地域包括ケアシステムにおける看護の役割Ⅰ	研究論文のクリティーク (発表と討議)		論文講読 発表準備	越納	
11、12	地域包括ケアシステムにおける看護の役割Ⅱ	研究テーマの可能性と研究 計画試案 演習		論文講読 発表準備	越納	
13、14	在宅療養者を支える多職種連携Ⅰ	研究論文のクリティーク (発表と討議)		論文講読 発表準備	越納	
15	在宅療養者を支える多職種連携Ⅱ	研究テーマの可能性と研究 計画試案 演習		論文講読 発表準備	越納	
履 修 条 件	在宅看護学特論Ⅱを履修していること。					
教科書・参考図書等	随時紹介する。					
成績評価方法	授業の到達目標の達成状況 (40%)、授業内での発表内容 (30%)・参加状況 (30%) によって判断する。					

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
老年看護学特論 I (看護援助学特論)	M31001	2 (30)	選択	1	前期	教授 吹田夕起子
授業概要	<p>老年期にある人々の健康維持・増進、疾病予防について全人的に課題を把握し分析する。その為に高齢者ケアに応用可能な理論の理解を深め、実践における応用可能性を探究する。さらに、生活習慣病やストレス等に関連する健康問題に着目し、終末期を含めた QOL の維持向上を目指した看護介入方法とその評価方法を探究する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者ケアに応用可能な理論について説明できる。 2. 高齢者の健康を全人的にアセスメントする方法について理解できる。 3. 生活習慣病やストレスと自己管理能力に焦点を当てて、看護介入方法について理解できる。 4. 高齢者の健康を支援するための社会資源や保健医療福祉サービスのシステムの課題について説明できる。 					
キーワード	理論、生活習慣病、システム、アセスメント					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	オリエンテーション 高齢者の理解	ライフサイクルからみた高齢者の理解と高齢者を取り巻く社会（講義、討論）			参考書、資料	吹田
2	高齢者の健康生活を支援する主要概念と諸理論	高齢者ケアにおける重要概念と理論の意義の理解。健康寿命、QOL、WHO の健康概念、エンパワメント理論などの理解（講義、討議）			参考書、資料	吹田
3	セルフケア理論と看護実践	セルフケア理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討（講義、討議）			参考書、資料	吹田
4	QOL 理論と看護実践	QOL 理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討（講義、討議）			参考書、資料	吹田
5	ストレス・コーピング理論と看護実践	ストレス・コーピング理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討（講義、討議）			参考書、資料	吹田
6	スピリチュアリティと看護実践	スピリチュアリティ理論について理解を深めセルフケア理論を用いた看護実践について文献検討（講義、討議）			参考書、資料	吹田
7	エンドオブライフケアと看護実践	エンドオブライフケアについて理解を深め看護実践について文献検討（講義、討議）			参考書、資料	吹田

8	高齢者の健康問題の査定法	高齢者を対象としたヘルスアセスメントのポイント (講義、討議)	参考書、資料	吹田
9	高齢者の健康問題と生活及び環境	生活と環境が高齢者の健康問題に及ぼす影響を理解し介入方法について検討 (講義、討議)	参考書、資料	吹田
10	問題解決のための諸制度と諸資源	高齢者の健康問題等に有効に介入するための制度と諸資源の具体的な理解 (講義、討議)	参考書、資料	吹田
11	問題解決のための看護実践方法とシステム	高齢者の健康問題等の解決に有効な看護実践方法と保健医療福祉サービスシステムの理解 (講義、討議)	参考書、資料	吹田
12	看護実践方法とシステムの改善と開発①	文献検討から看護実践方法とシステムの開発の検討 (講義、討議)	参考書、資料	吹田
13	看護実践方法とシステムの改善と開発②	文献検討、実践例から看護実践方法とシステムの開発の検討 (講義、討議)	参考書、資料	吹田
14	慢性疾患を持つ高齢者の自己管理能力を支援する看護	文献や実践例から糖尿病や心疾患を持つ高齢者の自己管理能力支援の重要性を理解するとともに新たな看護方法を検討 (講義、討議)	参考書、資料	吹田
15	介護予防のための自己管理能力を支援する看護	文献や実践例から高齢者の健康寿命を支える自己管理能力を支援する新たな看護方法を検討 (講義、討議)	参考書、資料	吹田
履 修 条 件		特になし。		
教科書・参考図書等		随時紹介する。		
成績評価方法		課題レポート (80%) と授業への貢献度 (20%) を総合的に評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
老年看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31002	2 (30)	選択	1	後期	教授 吹田夕起子
授業概要	認知症の病態生理、症状の特徴、診断及び治療方法等を最新の知見に基づき理解する。そのうえで、認知症による身体的・心理的・社会経済的影響をアセスメントし、認知症者及びその家族の健康課題や倫理的課題について分析し考察する。さらに、認知症者の生活や療養環境などから生活の質の向上を目指した看護方法の開発を探求する。					
到達目標	1. 認知症の種類、病態生理、症状の特徴、診断・治療方法を説明できる。 2. 認知症者と家族介護者のアセスメントの指標を理解できる。 3. 認知症者と家族介護者の健康課題や倫理的課題を理解し、解決策を考えることができる。					
キーワード	認知症、当事者、家族、アセスメント、支援方法					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	認知症施策の動向	講義		参考書、資料	吹田	
2	認知症者と家族を理解する方法、理論	講義、討議		参考書、資料	吹田	
3	認知症の病態生理、診断、治療	講義、討議		参考書、資料	吹田	
4	認知症者の包括的なアセスメント① 認知機能評価法などの理解と実践演習	講義、演習		参考書、資料	吹田	
5	認知症者の包括的なアセスメント② 介護負担尺度、うつ尺度、QOL 尺度の理解と実践演習	講義、演習		参考書、資料	吹田	
6	認知症者の包括的なアセスメント③ 生活機能のアセスメントと支援	講義、討議		参考書、資料	吹田	
7	認知症による身体的、心理的、社会・経済的影響と看護実践	講義、討論		参考書、資料	吹田	
8	若年認知症の理解と対応① 若年認知症者の特徴とそれに応じたケア	講義、討論		参考書、資料	吹田	
9	若年認知症の理解と対応② 若年認知症家族介護者の特徴とそれに応じたケア	講義、討論		参考書、資料	吹田	
10	認知症者と家族を支援するための社会資源	講義、討論		参考書、資料	吹田	
11	認知症者の生活を支える看護 病院、高齢者施設、地域における看護	講義、討論		参考書、資料	吹田	
12	認知症者と家族への支援方法① 支援の実際について例示しより良い支援方法について討論する	講義、討論		参考書、資料	吹田	

13	認知症者と家族への支援方法② 学生が経験した支援について事例発表し討論する	発表、討論	参考書、資料	吹田
14	倫理的課題と看護実践 認知症者と介護家族の人権とその支援方法について 討論する	講義、討論	参考書、資料	吹田
15	認知症に関する最新の研究動向 認知症医療、ケアにおける最新の研究論文を読み新たな ケアを探求する姿勢を理解する	講義、討論	参考書、資料	吹田
履修条件	特になし。			
教科書・参考図書等	鈴木みずえ、酒井郁子：パーソン・センタード・ケアでひらく認知症看護の扉．南江堂 中島希恵子監修・編集：認知症の人びとの看護．医歯薬出版 その他必要に応じて提示する。			
成績評価方法	課題レポート（70%）、講義、演習への貢献度（30%）による総合評価。			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
老年看護学演習 I	M31003	2 (30)	選択	1	前期	教授 吹田夕起子
授業概要	各自が興味を持っているテーマについて文献検討を行い、関心領域の研究の課題を明らかにする。さらに最新の研究知見から研究方法について理解を深める。それらを統合して研究計画書を作成する能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 興味のある分野の研究論文を検索することができる。 2. 研究論文をクリティークし、研究課題を明確にすることができる。 3. クリティークから研究課題解決に適切な方法を考えることができる。 					
キーワード	文献検索、クリティーク、研究課題、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション 文献検索の方法	文献検索データベースの使い方と文献収集（講義）（ゼミ）			参考書、資料	吹田
2	文献クリティークの方法①	興味のある分野の量的研究のクリティーク方法を理解（講義）			参考書、資料	吹田
3	文献クリティークの方法②	興味のある分野の質的研究のクリティーク方法を理解（講義）			参考書、資料	吹田
4	文献クリティークの方法③	研究論文のクリティーク（演習）			参考書、資料	吹田
5	文献検討①	学生の関心領域の文献を検討（発表・討議）			参考書、資料	吹田
6	文献検討②	学生の関心領域の文献を検討（発表・討議）			参考書、資料	吹田
7	文献検討③	学生の関心領域の文献を検討（発表・討議）			参考書、資料	吹田
8	文献検討④	学生の関心領域の文献を統合（発表・討議）			参考書、資料	吹田
9	文献検討⑤	学生の関心領域の文献を統合（発表・討議）			参考書、資料	吹田
10	文献検討⑥	学生の関心領域の文献を統合（発表・討議）			参考書、資料	吹田
11	研究計画書の書き方	研究の背景、研究方法、倫理的配慮など研究計画書の内容について理解（講義）			参考書、資料	吹田
12	研究計画書の検討①	学生個々の研究計画書の作成（演習）			参考書、資料	吹田
13	研究計画書の検討②	学生個々の研究計画書の作成と討議（発表・討議）			参考書、資料	吹田
14	研究計画書の検討③	研究計画書の修正と討議（発表・討議）			参考書、資料	吹田
15	研究計画書の検討④	研究計画書の発表と討議（発表・討議）			参考書、資料	吹田

履 修 条 件	老年看護学特論 I を履修していること。
教科書・参考図書等	随時紹介する。
成績評価方法	課題レポート（80%）及び授業への貢献度（20%）を総合して評価する。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
老年看護学演習Ⅱ	M31004	2 (30)	選択	1	後期	教授 吹田夕起子
授業概要	認知症に関する（または、各自が興味を持っている）テーマに基づき、医療機関または高齢者施設などで演習を行い、パイロットスタディを実施する。収集したデータ分析の演習を通して、対象としている現象の理解を深め、研究計画書及び研究倫理申請書を作成する能力を養う。					
到達目標	1. テーマに基づいたパイロットスタディを実施できる。 2. データ分析について理解を深め、説明できる。 3. 研究計画書を作成できる。 4. 研究倫理審査申請書について理解を深める。					
キーワード	パイロットスタディ、研究計画書、データ分析					
授 業 計 画						
回	授業項目	授業内容・授業方法			授業前後 の学習	担当
1	オリエンテーション 関心領域の研究背景、課題	関心があるテーマの研究背景、課題 (討議)			教科書、資料	吹田
2	関心領域の文献クリティーク①	学生の関心領域のクリティークと討議 (発表・討議)			教科書、資料	吹田
3	関心領域の文献クリティーク②	学生の関心領域のクリティークと討議 (発表・討議)			教科書、資料	吹田
4	パイロットスタディ研究計画書①	学生の学位論文研究のパイロットスタ ディ研究計画書の作成と検討 (講義、討議)			教科書、資料	吹田
5	パイロットスタディ研究計画書②	パイロットスタディ研究計画書の修正 と検討 (発表、討議)			教科書、資料	吹田
6	パイロットスタディ①	フィールドにおけるパイロットスタデ イの実施 (演習)			教科書、資料	吹田
7	パイロットスタディ②	フィールドにおけるパイロットスタデ イの実施 (演習)			教科書、資料	吹田
8	パイロットスタディ③	フィールドにおけるパイロットスタデ イの実施 (演習)			教科書、資料	吹田
9	データ分析①	収集したデータの分析と討議 (演習)			教科書、資料	吹田
10	データ分析②	収集したデータ分析と討議 (演習)			教科書、資料	吹田
11	データ分析③	データ分析結果の発表と討議 (演習)			教科書、資料	吹田
12	研究計画書作成①	パイロットスタディの結果をもとに研 究計画書を作成する (発表、討議)			教科書、資料	吹田

13	研究計画書作成②	作成した研究計画書の発表と討議及び修正（発表、討議）	教科書、資料	吹田
14	研究倫理審査申請書作成①	研究倫理審査申請書の作成と討議（発表、討議）	教科書、資料	吹田
15	研究倫理審査申請書作成②	研究倫理審査申請書の発表と討議及び修正（発表、討議）	教科書、資料	吹田
履 修 条 件		老年看護学特論Ⅱを履修していること。		
教科書・参考図書等		随時紹介する。		
成績評価方法		課題レポート（50%）、研究計画書（30%）、授業への貢献度（20%）を総合的に評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
母性看護学特論Ⅰ (看護援助学特論)	M31005	2 (30)	選択	1	前期	教授 橋本美幸
授業概要	思春期から成熟期、更年期、老年期へと変化する女性の心理的、身体的、社会的な特徴について、国内外の文献や事例をもとに、整理し考察する。さらに、現代社会に生きる女性と家族の健康課題、ライフステージ各段階のヘルスケアについて、それらを解決・評価する方法や理論を学修する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護学の主要な健康の概念・理論が理解できる。 ライフステージ各期の心身の健康課題を説明することができる。 ライフステージ各期の健康課題への支援方法を考察することができる。 母性看護の目的および役割について討論できる。 					
キーワード	リプロダクティブヘルス、ライフステージにおける心身の健康課題、ヘルスプロモーションと健康教育、性差医療					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1、2	授業ガイダンス 母性看護学に関する主要な概念・理論①	文献検索法 母性看護の目的と重要な視点、母性、父性、親性、セクシャリティ、家族とその機能（講義及び討議）			自己学習	橋本
3、4	母性看護学に関する主要な概念・理論②	ウィメンズヘルス、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、セルフケア、女性の自己決定権、自己効力感（講義及び討議）			自己学習	橋本
5、6	母性看護学に関する主要な概念・理論③	ヘルスプロモーション：健康教育モデル（講義及び討議）			自己学習	橋本
7、8	ライフステージからとらえる健康課題①	思春期の身体と精神の健康、成人期（成熟期）の身体と精神の健康（講義及び討議）			自己学習	橋本
9、10	ライフステージからとらえる健康課題②	子育て期の身体と精神の健康（講義及び討議）			自己学習	橋本
11、12	ライフステージからとらえる健康課題③	更年期・老年期の身体と精神の健康（講義及び討議）			自己学習	橋本
13、14	性差医療（gender-specific medicine）	日本における性差医療と今後の展望（講義及び討議）			自己学習	橋本
15	我が国の母子保健政策の現状と課題	母子保健法改定の変遷、子育て世代包括支援の課題、医療・保健政策における費用対効果（講義及び討議）			自己学習	橋本
履 修 条 件	特になし。					
教科書・参考図書等	その都度紹介する。					

成績評価方法	授業態度 (20%)、プレゼンテーション (20%)、グループワークへの参加度 (20%)、課題提出物 (20%)、レポート (20%) から評価する。
--------	--

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
母性看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31006	2 (30)	選択	1	後期	教授 橋本美幸
授業概要	<p>リプロダクティブ・ヘルス/ライツがもたらす問題・課題について学修し、これを解決する支援方法を文献や事例を通して分析し、アセスメントするための能力を養う。さらに、家族、社会集団、及び国家における母子保健の位置付け、取り組み、保健活動及び我が国の母子保健法等の法律に裏付けられた国、都道府県、市町村レベルの支援や保健サービスの特徴について学修を進める。また、母子保健活動の変遷、地域（国外も含む）による差異について考察する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検索システムを用い、文献探索ができる。 2. 論文を講読し、研究内容を要約して口頭で紹介することができる。 3. 講読論文解説を聞いて理解し、疑問点や当該研究の意義について討論することができる。 					
キーワード	文献検索、文献講読、文献要約					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、2	授業ガイダンス、 我が国における女性及び家族の支援と看護 包括的文献レビュー	文献検索法、文献紹介、 母子保健施策の現状と課題、母性保健 背景		関連文献の講 読、発表準備	橋本	
3、4	周産期の女性の健康課題と看護① 包括的文献レビュー	母子関係及び親性の発達過程、親役 割獲得支援、メンタルヘルス支援に 関する文献レビュー（プレゼンテー ションと討議）		関連文献の講 読、発表準備	橋本	
5、6	周産期の男性と家族の健康課題と 看護 包括的文献レビュー	父子関係及び親性の発達過程、親役 割獲得支援、父親のメンタルヘルス 支援、祖父母を含めた家族・サポ ートシステム等に関する文献レビュー （プレゼンテーションと討議）		関連文献の講 読、発表準備	橋本	
7、8	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ に関する現状と課題①包括的文献 レビュー	出生前診断と遺伝、生殖補助医療と 倫理的課題、女性のキャリア支援、 自己決定支援 （プレゼンテーションと討議）		関連文献の講 読、発表準備	橋本	
9、10	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ に関する現状と課題②包括的文献 レビュー	性感染症と予防、包括的性教育、プ レコンセプションケア、虐待、ドメ スティックバイオレンス		関連文献の講 読、発表準備	橋本	
11、12	我が国の母子保健政策の現状と課 題	母子保健法改定の変遷、母子健康包 括支援、子育て世代包括支援の課題 （プレゼンテーションと討議）		関連文献の講 読、発表準備	橋本	
13、14	海外のリプロダクティブ・ヘルス/ ライツ 包括的文献レビュー	国際母子保健の現状と課題 （プレゼンテーションと討議）		関連文献の講 読、発表準備	橋本	

15	まとめ	課題レポート作成（講義と演習）	文献整理	橋本
履修条件	特になし。			
教科書・参考図書等	その都度紹介する。			
成績評価方法	授業態度（20%）、プレゼンテーション（20%）、グループワークへの参加度（20%）、課題提出物（20%）、レポート（20%）から評価する。			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
母性看護学演習 I	M31007	2 (30)	選択	1	前期	教授 橋本美幸
担当教員 職位・氏名	教授 橋本美幸、江守陽子					
授業概要	文献検索の方法について実践的に学修する。文献レビュー及びクリティークを実践・習得し科学的思考を養う。自身の関心のあるテーマ、研究デザイン、研究方法、分析方法に着目した研究論文のレビューやクリティークを行い、自身の研究計画立案のための基礎的な力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究論文をクリティークし、研究の意義・限界・課題を明確にし、発表することができる。 2. 自らの研究テーマに関連する先行研究についてレビューし発表できる。 3. 自らの研究テーマの意義及び位置づけを明確にでき、適切な研究方法を選択できる。 4. 他者の発言・発表内容を理解し、質問や討論ができる。 					
キーワード	論文講読、クリティーク、研究意義、研究課題、研究テーマ					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、2	授業ガイダンス 研究論文の文献レビューとクリティーク	研究テーマに関連する文献検索と文献レビューの準備		論文講読 研究立案準備	共同	
3、4	関心のあるテーマに関連する文献レビューとクリティーク①	文献のプレゼンテーションと討論		論文講読 研究立案準備	共同	
5、6	関心のあるテーマに関連する文献レビューとクリティーク②	文献のプレゼンテーションと討論		論文講読 研究立案準備	共同	
7、8	質的研究論文の文献レビューとクリティーク①	文献のプレゼンテーションと討論		論文講読 研究立案準備	共同	
9、10	質的研究論文の文献レビューとクリティーク②	文献のプレゼンテーションと討論		論文講読 研究立案準備	共同	
11、12	量的研究論文の文献レビューとクリティーク①	文献のプレゼンテーションと討論		論文講読 研究立案準備	共同	
13、14	量的研究論文の文献レビューとクリティーク②	文献のプレゼンテーションと討論		論文講読 研究立案準備	共同	
15	自らの研究テーマに関連する文献リストのレビュー	文献のプレゼンテーションと討論		論文講読 研究立案準備	共同	
履 修 条 件	母性看護学特論 I を履修していること。					

教科書・参考図書等	随時紹介する。
成績評価方法	授業の到達目標の達成状況（40%）、授業内での発表内容（30%）・参加状況（30%）によって判断する。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
母性看護学演習Ⅱ	M31008	2 (30)	選択	1	後期	教授 橋本美幸
担当教員 職位・氏名	教授 橋本美幸、江守陽子					
授業概要	母性看護学特論Ⅰ・Ⅱ及び母性看護学演習Ⅰで学修した母性看護学、助産学関連領域の最新の研究内容及び看護実践等の分析、批判的評価から得た内容を踏まえて、実践科学としての科学的根拠に基づいたケア方法を学修する。さらに、自らの研究テーマを導き出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することによって、自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心のある分野に関する文献を系統的に検索し、客観的なクリティークができる。 2. 自らが取り組むべき研究課題を明らかにすることができる。 3. 自らの研究課題に関する基本概念を整理し、発表することができる。 4. 取り組もうとする研究の意義を発表することができる。 5. 研究課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することができる。 					
キーワード	リサーチクエスト、研究デザイン、研究倫理、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1、2	関心のあるテーマに関連する国内外の文献の検索と研究論文のクリティーク	授業のガイダンス 文献の検索とレビュー文献の 選択		論文講読 研究計画書 作成準備	共同	
3、4	関心のあるテーマの国内研究論文のクリティーク①	研究論文のプレゼンテーションと討議		論文講読 研究計画書 作成準備	共同	
5、6	研究計画書の作成① 研究課題とリサーチクエストの検討	研究論文のプレゼンテーションと討議		論文講読 研究計画書 作成準備	共同	
7、8	研究計画書の作成② 研究課題とリサーチクエストの検討	研究論文のプレゼンテーションと討議		論文講読 研究計画書 作成準備	共同	
9、10	研究計画書の作成③ 研究デザイン、研究方法の検討	研究論文のプレゼンテーションと討議		論文講読 研究計画書 作成準備	共同	
11、12	研究計画書の作成④ 研究方法の検討	研究論文のプレゼンテーションと討議		論文講読 研究計画書 作成準備	共同	
13、14	テーマに関する国内研究論文のクリティーク②	研究論文のプレゼンテーションと討議		論文講読 研究計画書 作成準備	共同	
15	研究計画書の作成⑤ 調査の進め方、倫理的配慮の検討	研究論文のプレゼンテーションと討議		論文講読 研究計画書 作成準備	共同	

履 修 条 件	母性看護学特論Ⅱを履修していること。
教科書・参考図書等	随時紹介する。
成績評価方法	授業の到達目標の達成状況（40%）、授業内での発表内容（30%）・参加状況（30%）によって判断する。

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
小児看護学特論Ⅰ (看護援助学特論)	M31009	2 (30)	選択	1	前期	教授 濱中喜代
授業概要	乳児期から思春期までの発達理論に基づいた対象の理解のうえで、心理的、身体的、社会的な特徴とその支援方法について、国内外の文献や事例を下に、整理し考察する。さらに、現代社会に生きる小児とその家族の健康課題、疾病の予防、ライフステージ各段階のヘルスケアについて、それらを解決・評価する方法や理論を学修する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の対象理解につながる主要な発達理論について説明できる。 2. 小児の心理的・身体的・社会的特徴とその評価及び看護について説明できる。 3. 小児と家族を取り巻く社会と健康課題・ヘルスプロモーション・疾病予防について説明できる。 4. 小児の権利擁護について自らの考えを説明できる。 					
キーワード	発達理論、心理的・身体的・社会的特徴、健康課題、インフォームドアセント・権利擁護					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	オリ&小児看護学の対象・目標・アプローチの仕方	講義・履修生の認識・関心の確認			問題意識の確認	濱中
2	対象理解：発達理論：エリクソン（自我発達理論）	エリクソン（自我発達理論）に関する文献学修と発表			文献検索と発表準備	濱中
3	対象理解：発達理論：ピアジェ（認知発達理論）	ピアジェ（認知発達理論）に関する文献学修と発表			同上	濱中
4	対象理解：発達理論：コールバーグ（道徳性発達理論）	コールバーグ（道徳性発達理論）に関する文献学修と発表			同上	濱中
5	対象理解：発達理論：マラー（分離－固体化理論）	マラー（分離－固体化理論）に関する文献学修と発表			同上	濱中
6	オレムのセルフケア理論・看護理論	オレムのセルフケア理論・看護理論に関する文献学修と発表			同上	濱中
7	心理的・身体的・社会的特徴の評価と看護：乳児期	乳児期の関連文献の精読と討議			関連文献の学修・レポート作成	濱中
8	心理的・身体的・社会的特徴の評価と看護：幼児期	幼児期の関連文献の精読と討議			同上	濱中
9	心理的・身体的・社会的特徴の評価と看護：学童期・思春期	学童期・思春期の関連文献の精読と討議			同上	濱中
10	小児と家族を取り巻く社会と健康課題	関連論文・研究の精読と討議			同上	濱中
11	小児と家族を取り巻く社会とヘルスプロモーション	関連論文・研究の精読と討議			同上	濱中

12	小児と家族を取り巻く社会と疾病予防	関連論文・研究の精読と討議	同上	濱中
13	小児関連の制度・政策と社会資源	関連論文・研究の精読と討議	同上	濱中
14	子どもの権利擁護とインフォームドコンセント・アセント	子どもの権利擁護に関する講義及び討議	事後のレポート課題	濱中
15	まとめ	全体に関する質疑応答	まとめのレポート作成	濱中
履修条件		特になし。		
教科書・参考図書等		テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する。		
成績評価方法		到達目標の達成状況 30%、演習内の参加状況 30%、レポート内容 40%で総合的に評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
小児看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31010	2 (30)	選択	1	後期	教授 濱中喜代
授業概要	小児や家族を取り巻く社会環境・状況を踏まえ、心理的・身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護活動について文献や事例を通して分析し、アセスメントするための能力を養う。また小児と家族とのコミュニケーションスキル及び多（他）職種連携と協働について学修を進める。さらにヘルスプロモーションに向けての健康教育について考察する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助について、子育て支援・虐待予防・災害看護の視点で説明することができる。 2. 心理的・身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護活動について分析することができる。 3. 小児と家族とのコミュニケーションスキル及び多（他）職種連携と協働について説明することができる。 4. ヘルスプロモーションに向けての健康教育について考察を深めることができる。 					
キーワード	社会環境・状況、コミュニケーションスキル、心理的・身体的健康課題、健康教育					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	オリエンテーション&小児看護学の援助の基本	オリ・講義		関心領域の 整理	濱中	
2	小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助 (子育て支援)：文献クリティーク	関連文献の精読と討議		資料の学修	濱中	
3	小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助 (虐待予防)：文献クリティーク	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
4	小児や家族を取り巻く社会環境・状況と看護援助 (災害支援)：文献クリティーク	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
5	心理的・身体的健康課題と看護援助(プレパレーション)	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
6	心理的・身体的健康課題と看護援助(症状緩和)	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
7	心理的・身体的健康課題と看護援助(エンドオブライフケア)	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
8	小児とその家族とのコミュニケーションスキル： 理論編	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
9	小児とその家族とのコミュニケーションスキル： 実践編	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
10	多（他）職種連携と協働：特別支援教育①	ゲストスピーカーによる 講義・討議		同上	濱中	

11	多（他）職種連携と協働：特別支援教育②	関連文献の精読と討議	同上	濱中
12	小児看護における教育機能・相談機能①	関連文献の精読	同上	濱中
13	小児看護における教育機能・相談機能②	関連文献の精読と討議	同上	濱中
14	ヘルスプロモーションに向けての健康教育①	関連文献の精読	同上	濱中
15	ヘルスプロモーションに向けての健康教育②	関連文献の精読と討議	同上	濱中
履修条件		特になし。		
教科書・参考図書等		テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する。		
成績評価方法		到達目標の達成状況 30%、演習内の参加状況 30%、レポート内容 40%で総合的に評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
小児看護学演習 I	M31011	2 (30)	選択	1	前期	教授 濱中喜代
授業概要	<p>新生児期から思春期までの健康リスクの高い小児あるいは健康問題を抱えた小児について、国内外の文献や事例分析及びフィールドワークを通して、より高度な看護活動の方策について考察を深める。また、科学的思考を実践に生かすために、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について学修する。それによって、小児看護学領域の看護実践研究の基礎的能力を養う。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児期～思春期までの小児の援助理論と実践について関連文献をクリティークし、研究の意義や課題について発表することができる。 2. 関連文献のクリティークをとおして研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法について理解できる。 3. より高度な看護活動の方策について関連研究にあたり、考察を深めることができる。 4. 健康問題を抱えた小児への方策の1つであるフィールドワークをとおして、より高度な看護活動の方策について、考察を深めることができる。 5. 小児と家族の最善の利益にかなう看護について、自らの考えを説明できる。 					
キーワード	小児の援助理論と実践、看護実践の質、看護活動の方策、フィールドワーク、最善の利益					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	オリエンテーション	講義・履修生の認識・関心の確認			問題意識の確認	濱中
2	小児看護学に関する援助理論と実践の検討:新生児期(文献クリティーク)	新生児期の援助に関する文献学修と発表と討議			論文購読と発表準備	濱中
3	小児看護学に関する援助理論と実践の検討:乳児期(文献クリティーク)	乳児期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	濱中
4	小児看護学に関する援助理論と実践の検討:幼児前期(文献クリティーク)	幼児前期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	濱中
5	小児看護学に関する援助理論と実践の検討:幼児後期(文献クリティーク)	幼児期後期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	濱中
6	小児看護学に関する援助理論と実践の検討:学童期(文献クリティーク)	学童期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	濱中
7	小児看護学に関する援助理論と実践の検討:思春期(文献クリティーク)	思春期の援助に関する文献学修と発表と討議			同上	濱中
8	より高度な看護活動の方策についての考察:事例検討①	関連文献の精読と討議			論文購読	濱中
9	より高度な看護活動の方策についての考察:事例検討②	関連文献の精読と討議			同上	濱中

10	より高度な看護活動の方策の考察:フィールドワーク (難病のこどもキャンプ参加)	難病のこどもキャンプ参加	事前準備学習	濱中
11	より高度な看護活動の方策の考察:フィールドワーク (難病のこどもキャンプ参加)	難病のこどもキャンプ参加	同上	濱中
12	より高度な看護活動の方策の考察:フィールドワーク (難病のこどもキャンプ参加)	難病のこどもキャンプ参加	事後のレポート作成	濱中
13	小児と家族の最善の利益にかなう看護:文献クリティーク・討議①	関連論文・研究の精読と討議	論文購読	濱中
14	小児と家族の最善の利益にかなう看護:文献クリティーク・討議②	関連論文・研究の精読と討議	論文購読	濱中
15	まとめ	全体に関する質疑応答	まとめのレポート作成	濱中
履修条件		小児看護学特論 I を履修していること。		
教科書・参考図書等		テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する。		
成績評価方法		到達目標の達成状況 30%、演習内の参加状況 30%、レポート内容 40%で総合的に評価する。		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
小児看護学演習Ⅱ	M31012	2 (30)	選択	1	後期	教授 濱中喜代
授業概要	小児とその家族への援助として、実践科学としての科学的根拠に基づいたケアを提供する方法を学修する。さらに、関連領域の最新の研究内容及び看護実践等の分析、批判的評価を通して、自らの研究テーマを導き出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することによって、自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護学における研究の動向及び課題について説明することができる。 2. 関心領域の最新の文献を系統的に検索し、クリティークできる 3. 自ら取り組むべき研究課題を明らかにし、その意義を説明することができる。 4. 小児看護学における研究倫理を説明することができる。 5. 自らの研究課題に則した研究デザイン、研究計画の試案を作成することができる。 					
キーワード	研究課題、研究デザイン、研究倫理、研究計画書					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	オリエンテーション&関心領域の言語化	オリ・履修生の関心領域の確認		関心領域の整理	濱中	
2	小児看護学に関する研究の動向と課題①	講義・文献学修と発表と討議		論文購読と発表準備	濱中	
3	小児看護学に関する研究の動向と課題②	講義・文献学修と発表と討議		同上	濱中	
4	研究課題の明確化に向けた国内外の文献レビュー①	文献学修と発表と討議		同上	濱中	
5	研究課題の明確化に向けた国内外の文献レビュー②	文献学修と発表と討議		同上	濱中	
6	研究課題の明確化に向けた国内外の文献レビュー③	文献学修と発表と討議		同上	濱中	
7	小児看護関連の最新の研究内容の分析、クリティーク①	関連文献の精読と討議		論文購読	濱中	
8	小児看護関連の最新の研究内容の分析、クリティーク②	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
9	小児看護関連の最新の研究内容の分析、クリティーク③	関連文献の精読と討議		同上	濱中	
10	小児看護関連の看護実践の分析・評価（事例検討）	看護経験の振り返り・分析		事前レポート作成	濱中	
11	小児看護関連の看護実践の分析・評価（文献クリティーク）①	関連文献の精読と討議		論文購読	濱中	

12	小児看護関連の看護実践の分析・評価（文献クリティーク）②	関連文献の精読と討議	同上	濱中
13	小児看護学領域の研究倫理	講義と討議		濱中
14	自らの研究テーマの導き出し&研究計画（案）の作成①	研究計画の試案作成	試案準備	濱中
15	自らの研究テーマの導き出し&研究計画（案）の作成②	研究計画の試案作成	試案準備	濱中
履修条件	小児看護学特論Ⅱを履修していること。			
教科書・参考図書等	テキストの指定はしない。参考図書・文献は随時紹介する。			
成績評価方法	到達目標の達成状況 30%、演習内の参加状況 30%、レポート内容 40%で総合的に評価する。			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
精神看護学特論 I (看護援助学特論)	M31013	2 (30)	選択	1	前期	教授 岡田実
授業概要	精神看護学の成り立ちと発展を理解するために、精神疾患と精神医療の歴史を世界的な動きを背景に日本が辿った歴史の変遷を学修しながら、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築という現在の精神医療政策に至るプロセスを学修する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界と日本における精神医療を比較し考察する。 2. 日本におけるメンタルヘルスの置かれている状況を理解できる。 3. 精神医療を地域包括ケアに適合させる精神医療政策の概要を理解できる。 4. 自身の置かれているフィールドが抱える課題と自身の役割を明確にできる。 					
キーワード	精神看護学の成立、精神医療の歴史の変遷 (国内外)、OECD 諸国間の精神医療比較、地域包括ケアと精神医療、地域移行と定着、アウトリーチ型精神医療の課題					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	精神看護学の成立	(講義・演習・GW)			問題提起と ディスカッション	岡田
2	精神病の概念と治療に関する歴史の変遷 ①	近代以前 (講義・演習・GW)			同上	岡田
3	精神病の概念と治療に関する歴史の変遷 ②	近代以降 (講義・演習・GW)			同上	岡田
4	メンタルヘルスの概念と歴史の変遷 ①	近代 (講義・演習・GW)			同上	岡田
5	メンタルヘルスの概念と歴史の変遷 ②	現代 (講義・演習・GW)			同上	岡田
6	精神医療における治療の概念と法制度の歴史	精神病理学の変遷 (講義・演習・GW)			同上	岡田
7	日本における精神医療保健福祉制度 ①	精神衛生法まで (講義・演習・GW)			同上	岡田
8	日本における精神医療保健福祉制度 ②	宇都宮病院事件 (講義・演習・GW)			同上	岡田
9	日本における精神医療保健福祉制度 ③	精神保健福祉法まで (講義・演習・GW)			同上	岡田
10	OECD 諸国の精神医療状況と日本の比較	最近のデータを調査する (講義・演習・GW)			同上	岡田
11	OECD 諸国における精神保健医療事情 ①	ヨーロッパ (講義・演習・GW)			同上	岡田
12	OECD 諸国における精神保健医療事情 ②	アメリカ, カナダ (講義・演習・GW)			同上	岡田
13	精神障害者に対応する地域包括ケア	政策概要 (講義・演習・GW)			同上	岡田

14	地域移行と定着を推進する現在の精神医療	問題と課題（講義・演習・GW）	まとめ	岡田
15	病院精神医療から地域精神医療への転換	アウトリーチ型の問題と課題（講義・演習・GW）	同上	岡田
履修条件		特になし		
教科書・参考図書等		<p>松本雅彦著：精神病理学とはなんだろうか，星和書店 高木俊介監修：精神障がい者地域包括ケアのすすめ—ACT - K の挑戦〈実践編〉，批評社 浅野弘毅著：精神医療論争史，批評社 酒井明夫著：こころの科学の誕生，日本評論社 高木俊介著：精神医療の光と影，日本評論社 同上：こころの医療宅配便—精神科在宅ケア事始，文藝春秋 同上：ACT—K の挑戦—ACT がひらく精神医療・福祉の未来 立岩真也著：造反有理—精神医療現代史へ，青土社</p>		
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起時の文献検討（20％）とディスカッション（20％）、参加姿勢（20％）を評価します。 ・自身の看護実践課題に関するレポート作成（40％）を評価します。 ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。 		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
精神看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	M31014	2 (30)	選択	1	後期	教授 岡田実
授業概要	精神疾患に対する多職種アプローチを可能にする各種の介入モデル（生物学的モデル・精神力動モデル・認知行動モデル・社会モデル）を学修する。関連して、精神医療保健福祉の領域において、各種の事例が地域への移行と定着を遂げることに効果のある多職種協働によるチームアプローチを可能にする理論と実践を学修する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症例の多様な分析と解釈を可能にする各種の視点があることを理解する。 2. 疾患モデル・精神力動モデル・認知講堂モデル・社会モデルの理論と実践を理解する。 3. 4つのモデルの照射を切り替えながら事例の分析と解釈を進める視点を理解する。 4. 多職種が合同した症例検討場面での看護職の「専門性」を検討することができる。 					
キーワード	多職種連携チームアプローチ、疾患モデル、精神力動モデル、認知行動モデル、社会モデル、4つのモデルによる多3面的な症例検討					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	精神医療における多職種連携の歴史	精神看護の独自性と専門性とは（講義・演習・GW）		問題提起とディスカッション	岡田	
2	多職種連携における精神看護学の基本的立場	調整的な役割（講義・演習・GW）		同上	岡田	
3	地域移行と多職種連携における精神看護実践 ①	その問題と課題（講義・演習・GW）		同上	岡田	
4	地域移行と多職種連携における精神看護実践 ②	その解決策（講義・演習・GW）		同上	岡田	
5	精神疾患をアセスメントするアプローチ	4つのモデル（講義・演習・GW）		同上	岡田	
6	疾患モデルによるアセスメント ①	理論的概要（講義・演習・GW）		同上	岡田	
7	疾患モデルによるアセスメント ②	具体的なプロセス（講義・演習・GW）		同上	岡田	
8	精神力動モデルによるアセスメント ①	理論的概要（講義・演習・GW）		同上	岡田	
9	精神力動モデルによるアセスメント ②	具体的なプロセス（講義・演習・GW）		同上	岡田	
10	認知行動モデルによるアセスメント ①	理論的概要（講義・演習・GW）		同上	岡田	

11	認知行動モデルによるアセスメント ②	具体的なプロセス (講義・演習・GW)	同上	岡田
12	社会モデルによるアセスメント ①	理論的概要 (講義・演習・GW)	同上	岡田
13	社会モデルによるアセスメント ②	具体的なプロセス (講義・演習・GW)	同上	岡田
14	4つのモデルと精神看護アセスメントの特徴	実践への適用方法 (講義・演習・GW)	まとめ	岡田
15	多職種連携における精神看護アセスメントの役割	多職種間の専門的役割 (講義・演習・GW)	同上	岡田
履 修 条 件		特になし。		
教科書・参考図書等		<p>タイラー，スタインバーグ著，堀弘明訳：モデルで考える精神疾患，星和書店 原田憲一著：精神症状の把握と理解—精神医学の知と技，中山書店 村上仁著：統合失調症の精神症状論，みすず書房 ジャネ著，松本雅彦訳：被害妄想—その背景の諸感情，みすず書房 ファルーン，ファッデン著，水野雅文ら監訳：インテグレイテッド・メンタルヘルス ケア—病院と地域の統合をめざして，中央法規出版 モシャー，ブルチ著，公衆衛生精神保健研究会訳：コミュニティ・メンタルヘルス， 中央法規出版</p>		
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起時の文献検討（20%）、ディスカッション（20%）、参加姿勢（20%）を評価します。 ・自身の看護実践課題に関するレポート作成（40%）を評価します。 ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。 		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
精神看護学演習 I	M31015	2 (30)	選択	1	前期	教授 岡田実
授業概要	ACT や精神科に特化した訪問看護活動などのアウトリーチ方式による先進的な看護実践、及び臨床現場が抱える倫理的諸問題を学修しながら、地域包括ケアに基づく地域移行を円滑に実施する方策を検討する。関連して、精神科救急・急性期治療と看護の現況を明らかにしながら、急性期像を複雑にしている自閉症スペクトラムを抱える対象への支援策を、個・家族・地域社会の広がりによって検討する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医療政策の歴史的変遷をたどり、患者の倫理的処遇基準の確立過程を理解する。 2. 精神科救急・急性期の治療と看護に関する理論の到達点と実践の現況を理解する。 3. 入院治療中心から地域社会への移行と定着を図る看護実践の現況を理解する。 4. 自閉症スペクトラム児への個・家族・地域社会による支援のありようを考える。 					
キーワード	患者処遇の倫理的基準、ACT によるアウトリーチ支援、地域包括ケア、統合失調症の発病・回復過程、臨界期の治療と看護、精神科救急・急性期看護理論と実践、自閉症スペクトラム児への総合的支援策					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	精神科救急・急性期治療の現状 ①	「改革ビジョン」まで (講義・演習・GW)		問題提起と ディスカッション	岡田	
2	精神科救急・急性期治療の現状 ②	「在り方検討会」以降 (講義・演習・GW)		同上	岡田	
3	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ①	患者処遇改革の変遷 (講義・演習・GW)		同上	岡田	
4	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ②	社会的入院への取組み (講義・演習・GW)		同上	岡田	
5	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ③	訪問看護による看護実践 (講義・演習・GW)		同上	岡田	
6	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ④	ACT による看護実践 (講義・演習・GW)		同上	岡田	
7	精神科救急・急性期看護実践の変遷 ⑤	地域包括ケアの看護実践 (講義・演習・GW)		同上	岡田	
8	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ①	中井久夫の統合失調症発 病過程 (講義・演習・GW)		同上	岡田	
9	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ②	中井久夫の統合失調症寛 解過程 (講義・演習・GW)		同上	岡田	
10	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ③	中井久夫の臨界期治療原 則 (講義・演習・GW)		同上	岡田	
11	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ④	阿保による精神構造モデ ル (講義・演習・GW)		同上	岡田	

12	精神科救急・急性期治療と看護の理論及び実践 ⑤	精神構造モデルによる看護実践（講義・演習・GW）	同上	岡田
13	自閉症スペクトラム児への急性期対応 ①	急性期対応（講義・演習・GW）	問題提起とディスカッション	岡田
14	自閉症スペクトラム児への急性期対応 ②	家族対応（講義・演習・GW）	同上	岡田
15	自閉症スペクトラム児への急性期対応 ③	学校・地域社会対応（講義・演習・GW）	同上	岡田
履修条件		精神看護学特論 I を履修していること。		
教科書・参考図書等		<p>厚生労働省による精神保健医療福祉政策に関する各種の資料 中井久夫著：統合失調症 1・2, みすず書房 阿保順子・佐久間えりか編：統合失調症急性期看護マニュアル, すぴか書房 M.F.Ward 著, 阿保・田崎・岡田ら訳：精神科臨床における救急場面の看護, 医学書院 岡田実著：暴力と攻撃への対処—精神科看護の経験と実践知, すぴか書房 阿保順子編著：回復のプロセスに沿った精神科救急・急性期ケア, 精神看護出版 星野弘：分裂病を耕す, 日本評論社 横田泉：統合失調症の回復とはどういうことか, 日本評論社 Martin F. Ward: Nursing the Psychiatric Emergency, Butterworth & Heinemann, 1995 D. Antai-Otong: Psychiatric Emergencies; How to accurately assess and manage the patient in crisis. PESIHealth Care, 2004 T. Mason & M.Chandley: Managing violence and aggression; A manual for nurses and health care workers, Churchill Livingstone, 1999 J. Morrissey & P. Callaghan: Communication skills for mental health nurses, Open University Press, 2011 P. Callaghan: Emergencies in mental health nursing, Oxford University Press, 2012 田中康雄著：生活障害として診る発達障害臨床, 中山書店 内海健著：自閉症スペクトラムの精神病理, 医学書院 高岡健著：やさしい発達障害論, 批評社</p>		
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> 問題提起時の文献検討（20%）、ディスカッション（20%）、参加姿勢（20%）を評価します。 自身の看護実践課題に関するレポート作成（40%）を評価します。 インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。 		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
精神看護学演習Ⅱ	M31016	2 (30)	選択	1	後期	教授 岡田実
担当教員 職位・氏名	教授 岡田実 非常勤講師 川添郁夫					
授業概要	事例研究や症例研究をまとめ記述する方法を学修し、その方法に基づいて各自が抱えている事例をレポートし、各事例が抱える問題の解決策を互いに検討しながら、より効果的な介入策を実施する具体策を組み立てる。関連して、精神医療における専門多職種による事例研究や症例研究に学びながら、チームアプローチの在り方を学修する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床における症例報告の果たす役割を知る。 2. 臨床実践のエビデンスを学術論文から裏づける方法を理解する。 3. 他の専門職者による臨床報告を抄読しながら、チームアプローチに効果的な「共通言語」を検討することができる。 4. 自験例を用いて一定の手法とルールに基づいて臨床報告を行い、他のメンバーから批評を受けることができる。 					
キーワード	症例報告の作成、症例報告の発表術、学術論文の検索方法、文献検討、事例検討と症例報告、他職種による症例報告、専門多職種間の共通言語					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	精神科症例報告の書き方 ①	症例報告を記述する意味 (講義・演習・GW)		問題提起と ディスカッション	岡田	
2	精神科症例報告の書き方 ②	症例報告の構成 (講義・演習・GW)		同上	岡田	
3	精神科症例報告の書き方 ③	症例報告の記述方法とルール (講義・演習・GW)		同上	岡田	
4	精神科症例報告の書き方 ④	症例報告再生の注意点 (講義・演習・GW)		同上	岡田	
5	症例報告に必要な文献検討の方法 ①	医中誌、CiNii、PubMed、 CINAHL の使い方 (講義・演習・GW)		同上	川添	
6	症例報告に必要な文献検討の方法 ②	文献検討と先行研究の要約 (講義・演習・GW)		同上	川添	
7	症例報告に必要な文献検討の方法 ③	症例報告作成とプレゼンテーション (講義・演習・GW)		同上	川添	
8	事例検討の取組みと看護実践への活用 ①	事例検討と症例報告の違い (講義・演習・GW)		同上	岡田	
9	事例検討の取組みと看護実践への活用 ②	両者の看護実践への貢献 (講義・演習・GW)		同上	岡田	

10	臨床医による症例報告の抄読 ①	統合失調症, 感情障害など (講義・演習・GW)	同上	岡田
11	臨床医による症例報告の抄読 ②	発達障害圏, 認知症, PTSD など (講義・演習・GW)	同上	岡田
12	他職種による症例報告の抄読 ①	臨床心理士, 薬剤師など (講義・演習・GW)	同上	川添
13	他職種による症例報告の抄読 ②	OT, PSW など (講義・演習・GW)	同上	川添
14	症例報告を作成し発表する ①	自験例の症例報告作成 (講義・演習・GW)	まとめ	共同
15	症例報告を作成し発表する ②	自験例の発表とディスカッション (講義・演習・GW)	同上	共同
履修条件		精神看護学特論Ⅱを履修していること。		
教科書・参考図書等		仙波純一著：精神科症例報告の上手な書き方, 星和書店 福田正人編著：精神科の専門家をめざす, 星和書店 青木省三著：精神科臨床ノート, 日本評論社 『精神科治療学』（星和書店）に掲載されている各種症例報告 『精神医学』（医学書院）に掲載されている各種症例報告		
成績評価方法		<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起時の文献検討（20%）、ディスカッション（20%）、参加姿勢（20%）を評価します。 ・自身の看護実践課題に関するレポート作成（40%）を評価します。 ・インターネットによるオンライン・ミーティングを使った遠隔授業への参加を認めます。 		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
看護管理学特論Ⅰ (看護提供システム論)	M41001	2 (30)	選択	1	前期	教授 土田幸子
担当教員 職位・氏名	教授 土田幸子 講師 高橋明美					
授業概要	看護を効果的・効率的に提供するために必要な看護管理の理論や技術について体系的に学ぶ。そして、看護管理学の歴史的発展を理解し、看護サービス提供システムとしての看護組織の構造と組織運営について学び、看護を効果的・効率的に提供するために看護管理者としてめざす看護サービスの実現に向けた方策を探る。					
到達目標	1. 組織の構造と機能に関する主要概念や基本理論を学び、看護組織の特徴を説明できる。 2. 看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析できる。 3. 看護部門における看護管理者の役割と活動を理解し、看護管理者のあり方を考察できる。					
キーワード	組織、看護管理過程、リーダーシップ、意思決定、看護サービス					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授業内容・授業方法		授業前後 の学習	担当	
1	ガイダンス 看護組織の歴史的発展 看護管理とは	①フローレンス・ナイチンゲールの「看護管理」について ②看護管理とは ③看護サービスとは ④看護管理過程とは		各施設における看護部門の役割について	土田 高橋	
2	看護組織論 1	①組織の構造と機能、組織の活動 ②組織の発達と組織文化 組織発達と変革		プレゼンの準備	土田 高橋	
3	看護組織論 1	履修生のプレゼンテーション		討議準備		
4	看護組織の開発 1	①チームマネジメント ②リーダーシップ論 ③協働とは		資料の学修	土田 高橋	
5	看護組織の開発 2	履修生のプレゼンテーション		プレゼンの準備	土田 高橋	
6	看護組織の運営 1 (組織変革)	①看護組織の活動と倫理 ②目標管理 ③組織分析 (SWOT)		討議準備	土田 高橋	
7	看護組織の運営 2 (組織変革)	③について 履修生のプレゼンテーション		プレゼンの準備	土田 高橋	
8	看護組織の運営 3 (組織変革)	③について 履修生のプレゼンテーション		討議準備	土田 高橋	
9	看護組織の運営 1 (資源の活用)	①サービスとは ②人材管理、モノの管理、情報の管理、カネの管理 ③リスクマネジメント		資料の学修	土田 高橋	

10	看護組織の運営 2 (資源の活用)	②について 履修生のプレゼンテーション	討議準備	土田 高橋
11	看護組織の運営 3 (資源の活用)	③について 履修生のプレゼンテーション	討議準備	土田 高橋
12	看護管理と倫理	①看護組織の倫理 ②看護管理と組織文化について	資料の学修	土田 高橋
13	看護管理に必要な能力	①カッツの理論 ・テクニカルスキル ・ヒューマンスキル ・コンセプトチャルスキル ②看護管理者に必要な能力	資料の学修	土田 高橋
14	看護サービスの組織化 1	看護サービス提供システムの組織化についての考えをプレゼンテーション	プレゼンの準備	土田 高橋
15	看護サービスの組織化 2	全体討議	討議準備	土田 高橋
履修条件		看護管理に関心の有る学生、看護管理経験者が望ましい。		
教科書・参考図書等		井部俊子他監修：看護管理学習テキスト第4版 第1巻、第2巻、第4巻 日本看護協会出版会、2024 その他、随時紹介する		
成績評価方法		評価レポート (100%)		

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
看護管理学特論Ⅱ (人的資源活用論)	M41002	2 (30)	選択	1	前期	教授 土田幸子
担当教員 職位・氏名	教授 土田幸子 講師 高橋明美					
授業概要	質の高い看護サービスを提供するための看護専門職者の人的資源管理の基礎地学び、看護組織における人的資源の有効な活用について理解を深める。そして、看護職者の生涯学習の必要性について探る。					
到達目標	1. 労務管理と人材育成に関する基礎知識を説明できる。 2. 看護組織における人的資源のマネジメントに関する文献検討を行い、課題を明確にする。 3. 看護部門の理念の整合性を図りながら人的資源の有効な活用について考察できる。					
キーワード	人的資源管理、キャリア開発、人事管理、ストレスマネジメント					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	ガイダンス 労務管理 1-1	①労働法規 ②就業規則 ③雇用形態、勤務体制 ④タイムマネジメント ⑤人員配置			資料の学習	土田 高橋
2	労務管理 1-2	労務に関する課題について討議			討議の準備	土田 高橋
3	人材育成 1-1 人材育成の基礎知識	①成人学習の特徴 ②動機付け理論 ③教育計画			資料の学習	土田 高橋
4	人材育成 1-2 人材育成に関する課題	人材育成に関する課題について討議			討議の準備	土田 高橋
5	キャリア開発 1-1	①看護専門職者としてのキャリア ②クリニカルラダー ③評価管理と目標管理			資料の学習	土田 高橋
6	キャリア開発 1-2	目標管理の課題とは			討議の準備	土田 高橋
7	キャリア開発 1-3	①院内教育計画立案 ②院内教育の担当者の役割 ③キャリア発達のプロセス			資料の学修	土田 高橋
8	キャリア開発 1-4	院内教育の在り方について討議			討議の準備	土田 高橋
9	チームマネジメント 1-1	①看護チームのマネジメント ②多職種チームのマネジメント ③人的資源の有効な活用タスク/シ ェア			資料の学習	土田 高橋

10	チームマネジメント1-2	チーム運営上の課題について討議	討議の準備	土田 高橋
11	心理的側面のマネジメント1-1	①ストレスマネジメント ②コンフリクトマネジメント ③ハラスメントの予防と対策	資料の学習	土田 高橋
12	心理的側面のマネジメント1-2	課題について討議	討議の準備	土田 高橋
13	心理的側面のマネジメント1-3	課題について討議	討議の準備	土田 高橋
14	看護部門における効果的な人的資源の マネジメント1	全体討議	資料の準備	土田 高橋
15	看護部門における効果的な人的資源の マネジメント2	全体討議	質問の準備	土田 高橋
履 修 条 件	認定看護管理者を志望する学生、看護管理に関心の有る学生で看護管理経験者が望ましい。			
教科書・参考図書等	井部俊子他監修：看護管理学習テキスト第4版 2024年度版 第2巻、第3巻 日本看護協会出版会、2024 その他、随時紹介する			
成績評価方法	評価レポート（100%）			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
看護管理学特論Ⅲ (看護経済・経営論)	M41003	2 (30)	選択	1	前期	教授 土田幸子
担当教員 職位・氏名	教授 土田幸子 講師 高橋明美					
授業概要	看護管理者として自施設が地域社会から求められているヘルスケアサービスを正しく理解し、それを看護部の理念や年度計画に反映させる過程を学修する。そして、その理念や年度計画を具現化するための看護組織の構築と運営についてと施設の経営参画についても学修する。加えて、所属施設がある都道府県の保健福祉看護政策の中から履修生が重要と考える政策について、厚生労働省等から出されている通知類と対照させながら、その施策動向の理解を進めると同時に、看護部として果たせる役割等についても学修する。					
到達目標	1. 保健医療福祉の政策動向を理解し、それら看護管理に与える影響を考えることができる。 2. 社会が求めるヘルスケアサービスを提供するために、看護の現場における現状を分析し、課題を提示することができる。 3. 組織運営における経営の視点から看護部部門が参画することの意義を説明できる。					
キーワード	看護部管理、ユニフィケーション、経営参画					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1	ヘルスケアシステムの構造と現状	①社会保障制度の現状と課題 ②保健医療福祉サービス ③ヘルスケアサービスにおける看護の役割 ④多職種連携によるチームケア提供			資料の学修	土田 高橋
2	看護制度・政策の動向	①看護政策に関係する審議会・検討会 ②制度変化に伴う看護管理への影響と対応			資料の学修	土田 高橋
3	ヘルスケアサービスの創造	①地域連携を基盤としたヘルスケアサービス ②ヘルスケアサービスの構築			資料の学修 履修生のプレゼン準備	土田 高橋
4	地域が求めるヘルスケアサービス	地域の医療ニーズの把握、市区町村レベルのニーズをもとに討議			討議の準備	土田 高橋
5	経営資源と管理 1	①診療・介護報酬 ②経営指標の活用 ③費用対効果 ④適切な療養環境の整備			資料の学修	土田 高橋
6	経営資源と管理 2	①財務管理 ②診療報酬制度の実際			資料の学修	公認会 計士
7	経営資源と管理 3	①医療経営の特徴と課題 ②医療施設、介護福祉施設、訪問看護ステーション等の経営の特徴と課題			資料の学修 履修生のプレゼン準備	訪問看護 ステーション 所長

8	経営資源と管理 4	経営戦略について討議	討議の準備	土田 高橋
9	看護管理における情報管理	①医療・看護情報の種類と特徴 ②看護の評価・改善のための活用 ③組織的情報管理 ④関連法規の遵守	資料の学習 履修生のプ レゼン準備	土田 高橋
10	看護部門の資源を客観化するための データ化・見える化	資料に基づく講義と討議	討議の準備	土田 高橋
11	経営と質管理 1	①看護におけるクオリティマネジメン ト ②ガバナンスとアカウンタビリティ ③医療・看護の質とデータ活用 ④第三者評価 ⑤人材確保	資料の学習 履修生のプ レゼン準備	土田 高橋
12	経営と質管理 2	健全な経営と質管理について討議	討議の準備	土田 高橋
13	病院運営・経営参画 1	組織の「理念」、看護部門の「理念」「年 度計画」にもとづき経営への参画につ いて討議	資料の学習 履修生のプ レゼン準備	土田 高橋
14	病院運営・経営参画 2		履修生のプ レゼン準備	土田 高橋
15	病院運営・経営参画 3	自施設の看護組織の将来展望	質問の準備	土田 高橋
履 修 条 件	認定看護管理者を志望する学生、看護管理に関心の有る学生で看護管理経験者が望ましい。			
教科書・参考図書等	井部俊子他監修：看護管理学習テキスト第 4 版 2024 年度版 第 1 巻、第 5 巻、日本看護協会出版会、2024 その他、随時紹介する			
成績評価方法	評価レポート（100%）			

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
看護管理学演習	M41004	2 (30)	選択	1	後期	教授 土田幸子
担当教員 職位・氏名	教授 土田幸子 講師 高橋明美					
授業概要	看護管理特論（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の学修の中から、履修生の実際に即したレベルでの看護管理課題を見出し、その改善計画の立案を、下記①～⑥に基づいて行う。①動機や目的の根拠の明確化、②組織分析と計画策定、③資料・文献類のクリティーク、④期待される成果と方法の現実性、⑤改善計画案の完成度と目的との整合性、⑥パワーポイント等を用いた理解しやすいプレゼンテーションの実施。					
到達目標	1. 部署内の諸業務の改善計画の策定について理解できる。 2. 看護部内の「教育・情報・研究・人事」等の委員会活動の運営と改善について理解できる。 3. 看護活動と経営について理解できる。 4. 看護管理に必要な外部組織（地方公共団体・看護教育機関・看護協会等）との協働について理解できる。					
キーワード	業務改善、委員会活動、対外協力					

授 業 計 画

回	授業項目	授業内容・授業方法	授業前後 の学習	担当
1	ガイダンス 組織管理論 ・組織とその構造と機能 ・所属組織の組織分析（SWOT分析）とは	履修生の職場をもとに組織のあり方について討議する	職場の組織の構造と機能について	土田高橋
2	組織管理論 ・看護部内の「教育・情報・研究・人事」等の委員会活動の運営と課題 ・看護活動と経営	履修生の所属している看護部内の委員会活動について説明する	職場の組織分析 職場の委員会活動の実際	土田高橋
3	看護部内の改善論① 自施設看護部の組織分析（SWOT分析）をもとに、部署（病棟・外来）の経営戦略を見出す	看護部の組織分析を行い、資料を作成し、プレゼンテーションを行う。	資料の学習 履修生のプレゼン準備	土田高橋
4	看護部内の改善論② 立案した経営戦略から業務管理・安全管理・人事管理の中から履修生が選択し、看護管理課題とその要因を明らかにする	自施設の経営戦略について資料を作成し、プレゼンテーションを行う。	資料の学習 履修生のプレゼン準備	土田高橋
5	看護部内の改善論③ 改善につながる文献のクリティーク 改善の方向性を見いだす	改善につながる文献等を収集し、概要を説明できるよう準備する	資料の学習 履修生のプレゼン準備	土田高橋
6	看護部内の改善論⑤ 改善計画の策定	具体的・現実的な改善計画を模索	プレゼンテーション準備	土田高橋
7	看護部内の改善論⑥ プレゼンテーション	策定した改善計画についてパワーポイントを用いたプレゼンテーション	資料の学習 履修生のプレゼン準備	土田高橋

8	医療機関内における教育体制への改善提言① ・現状と課題 ・外部組織との協働 ・関連文献等のクリティーク	自施設の現状分析を行い、課題を明確化する課題と改善点の根拠となる文献等のクリティーク	文献の収集と読解	土田高橋
9	医療機関内における教育体制への改善提言② ・実践報告	ゲストスピーカーによる実践報告	課題の明確化	土田高橋
10	医療機関内における教育体制への改善提言③ ・改善計画の立案	具体的・現実的な改善計画を模索	前回の意見を資料化する	土田高橋
11	医療機関内における教育体制への改善提言④ ・改善計画の立案	策定した改善計画についての討議	資料の学習 履修生のプレゼン準備	土田高橋
12	地域医療の中でのニード① ・ニーズを見いだすための情報収集の仕方	地域医療を推進するためのニーズを明らかにする。	資料の学習 履修生のプレゼン準備	土田高橋
13	地域医療の中でのニード② ・看護部としての活動のあり方 ・院内運営会議・経営会議へ提言	地域医療を推進するためのニーズに対する看護部としての活動を考える	資料の学習 履修生のプレゼン準備	土田高橋
14	実践看護管理の発展 (看護哲学と看護科学の担い手としての看護管理者)	看護管理の哲学的側面と科学的側面について討議	資料の学習	土田高橋
15	まとめ 看護管理・看護管理者とは何か 評価レポートの提示	看護管理学特論（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）も含めた学習全体の総括	質問・意見の準備	土田高橋
履修条件	看護管理学特論Ⅰ、看護管理学特論Ⅱ、看護管理学特論Ⅲを履修していること。			
教科書・参考図書等	看護管理学習テキスト第4版2024年度版 第1巻、第2巻、第3巻、第4巻、第5巻、別巻、にほん看護協会出版会、2024 その他、随時紹介する。			
成績評価方法	評価レポート（100%）。			

研 究 科 目

科目名	授業コード	単位数 (時間数)	必修・選択 の別	学年	開講 時期	科目責任者
看護学特別研究	M51001	8 (120)	必修	2	通年	教授 橋本美幸
担当教員 職位・氏名	教授 橋本美幸、濱中喜代、岡田実、江守陽子、土田幸子、吹田夕起子、三浦靖彦、永井睦子 准教授 石井真紀子、越納美和、上田耕介 講師 牛渡亮					
授業概要	<p>研究倫理審査を受審し承認が得られるまで、研究計画書の完成度を高める作業を継続する。研究計画書が承認された後に、倫理的配慮に基づいて、以下の研究プロセスに沿って修士論文の作成を指導する。</p> <p>①研究計画に基づきデータを収集する。②収集されたデータを結果にまとめる。③得られた結果に考察を加え、看護実践への提言と研究の限界をまとめる。④研究の結論をまとめる。⑤修士論文の要旨を作成する。</p> <p>論文の作成要領にしたがって修士論文の仕上げを支援する。修士論文をもとにプレゼンテーションを行い、他者からの評価を得る。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究倫理審査を受審し承認を得ることができる。 2. 研究対象者に倫理的配慮をしたうえで適切な手順でデータを収集し、客観的・科学的に分析できる。 3. 研究結果を記述し、客観的・科学的な考察を加えて修士論文を作成できる。 4. 研究の結論から、看護実践への提言と研究の限界について説明できる。 5. 研究成果を口頭で報告し、その評価を得ることができる。 					
キーワード	研究デザイン、研究計画、研究倫理審査、論文作成、プレゼンテーション					
授 業 計 画						
回	授 業 項 目	授 業 内 容 ・ 授 業 方 法			授 業 前 後 の 学 習	担 当
1 ～ 10	研究計画書の修正	1. 研究計画書の研究倫理審査プロセスを終える 2. 「条件付き承認」から「承認」までの過程を支援する (演習)			授業前後の学修に必要な内容については適時助言する	各教員
11 ～ 20	データ収集・整理①	倫理的問題に配慮しながら、計画どおりデータ収集・整理・分析を行う (演習)			同 上	各教員
21 ～ 28	データ収集・整理②	倫理的問題に配慮しながら、計画どおりデータ収集・整理・分析を行う (演習)			同 上	各教員
29 ～ 36	データ分析 (研究デザインに応じたデータ作成)	データの分析・図表作成を行う (演習)			同 上	各教員
37 ～ 44	修士論文の作成①	得られたデータを分析し結果にまとめ考察する (演習)			同 上	各教員
45 ～ 52	修士論文の作成②	1. 得られたデータを分析し結果にまとめ考察する 2. 序論、方法、結果、考察、看護実践への提言、結論について文章化する (演習)			同 上	各教員

53 ～ 56	口頭発表の準備	プレゼンテーションの準備をし、実施する（演習）	同 上	各教員
57 ～ 60	発表と評価	評価を受け、より完成度の高い論文に修正する（演習）	同 上	各教員
履 修 条 件		専門科目のうち、各自の専門研究領域の科目「特論（Ⅰ～Ⅲ）」「演習（Ⅰ・Ⅱ）」を含む8単位を履修していること。		
教科書・参考図書等		アメリカ心理学会（APA）著、前田樹海ほか訳：APA論文作成マニュアル 医学書院 前田樹海,江藤裕之. (2023) .APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール（第2版） 医学書院		
成績評価方法		作成された論文内容を以下の基準で審査する。 1. 研究内容が看護学に寄与するものである。 2. 研究の意義・目的・方法が明確・適切である。 3. 倫理的配慮を含めた研究計画書が作成されている。 4. データが客観的・科学的に分析されている。 5. 研究成果を口頭で報告することができる。		

学籍番号	氏 名